

## 2. 招へい青年の印象

### ■アジア

### ■カンボディア

#### 北海道の農業の発展における 農業協同組合

ケマラ・コッル  
(農業(流通)グループ)

青年招へい事業による28日間の日本滞在期間中、私は発展を遂げた日本について多くのことを経験し学んだ。それらは、日本の社会、生活、伝統・習慣、文化、観光、農業・流通、等である。

その中で、私が最も興味深く感じた点は、北海道における農業協同組合を通じて学んだ農業の発達だ。農業協同組合は、機械化をはじめとし、生産者と消費者を結ぶ農作物の流通を容易にする等、農業分野の発達の基礎となるものである。北海道の農業協同組合は、その地域市民の生活を繁栄へと導くものだった。

これ以外にも農業協同組合は、農家の目的に合った専門技術情報を供給するという重要な役割を担っている。農業協同組合は、流通センター、農作物の貯蔵庫、発達した農機具の提供等、素晴らしいさまざまなサービスを提供している。

これらすべての要素は、農家の生産性を向上させる。農家は無駄や損失、不当な値づけ、市場の不足等の問題を心配することなく、生産に励むことができる。

以上のような経験をもとに、私はこのような素晴らしい知識をカンボディアで伝え、活用させたいと思う。カンボディアは国民の80%が農民であり、農業依存国であるため、国の発展には有益なことだ。

ありがとうございました。

### 行政改革

サレット・ソク  
(公務員(行政改革)グループ)

現在、日本政府は、カンボディアも含め、世界中の開発途上の国々に援助を行っている。カンボディアへのさまざまな支援の中で、最も多くの支援を行っているのが日本である。行政改革を主な研修テーマとして行われた、カンボディア青年15人のJICAの青年招へい事業も、その支援の一つだ。

28日間のプログラムの中で、私たちは素晴らしい成果を得た。それらは、民主主義のもとで国民の権利を尊重する日本の国民と社会、日本政府の管理制度、日本の公務員制度に関する研修によって得られたものである。日本政府の管理制度とは、中央政府は自治権を地方自治体に譲渡し、県や市町村のレベルの自治を認めて地方分権の政策を実行するものだ。

日本で見聞したすべてのことを、カンボディアの現状と照らし合わせ、私たちは2国の管理制度を比較することができる。この中で私たちが最も興味深く感じた点は、中央政府の指導体制だ。中央政府は、必要性の度合いが最も強いとされるものを認識し、地方に自治権を譲渡している。さらに、私たちが理解を深めたのは、相互協力を目的とし、生活の向上のため地域の住民によって成立された生活協同組合である。

総括すると、私たちが28日間で、指導・管理方法、職務の遂行方法等、広い経験を得た。私たちがこれらの知識と経験のすべてを、カンボディアの国家建設と発展のために広め、活用することを確信している。

カンボディアは、平和実現後、行政改革を第一に進めている。特に地方自治は、カンボディア政府が整備を始め、2001年の末には実行に移す予定である。

## 私たちの日本滞在

サボンヌ・ゾーン、サモール・オウン  
(ASEAN混成 社会福祉(児童青年福祉)グループ)

JICAとJICEの支援で実現した私たちの日本での滞在に関して、少し感想を述べてみたい。

日本は経済大国として、世界、特にアジアの中でも興味深い国である。私たちは、日本の気候や交通システム、特に社会福祉制度に関心を持った。

気候に関して言えば、夏でさえ暑すぎることなく、雨もそれほど降らず、過ごしやすい。それゆえ、日本に来る人は誰でも、この国での滞在を心地よく楽しめると思う。

日本のインフラはたいへん優れていて、日本国内どこに行っても、それらしい交通渋滞に出会うことはなかった。市場やスーパーマーケットは快適で、人であふれていた。日本人は伝統や文化を大切にす国民であると感じた。基本的に日本人はいつもの場所でも日本語を使う。

日本政府が歴史的な場所を博物館などとともに保存し、次世代に伝えようとしていることは、とてもよいことであると感じた。それによって若い世代が歴史、特に戦争などを知ることになるからである。

日本人は、同じ間違い、戦争を二度と起こさないだろう。また、日本人は他人に会う時はいつでも、互いにお辞儀をする礼儀正しい国民である。

日本人は親しみやすく、いつでも諸外国との関係を良くしようと努力しているように感じられた。日本人の生活レベルは一様で、尊敬の念というものが重要視されている。日本の社会福祉は整っていて、さまざまなサービスが受けられるため、街中にはストリートチルドレンや物乞いの人などは全くいなかった。

最後にもう一度、JICA、JICE、そして札幌国際プラザの皆さんに心よりお礼を申し上げたい。

ありがとうございました！

## ■アジア

## ■インドネシア

## 日本式共同浴場

ロサ・マリア・ガニ  
(教員(理数科教育)グループ)

富士山の麓にあるホテルに宿泊した時のこと、日本の友人に共同浴場に行こうと誘われた。大きめの浴槽の中にお湯がはっており、裸で一緒に湯船にかかるというのだから、なんともユニークである。男性と女性風呂は分かれているといっても、このようなスタイルに慣れていない私は躊躇してしまった。私の田舎(西スマトラ)でも、川での共同沐浴の光景はたいして珍しいものではない。私自身も体験したことがあるが、布で体を覆ってのことである。

私の迷いを察した日本の友人は、お湯は天然の温泉であり富士山麓の水は質が高く有名であるとか、肌がきれいになるよと言って私の気をひこうと必死である。迷いはあったが、この新しい友人をがっかりさせないためにも、共同浴場に行くことを決意した。それにせいかく日本にいるのだから、日本人の習慣を体験するのも悪くないと考えたからだ。

ホテルに用意された浴衣と不安な思いを抱えて、共同浴場へと向かった。浴室に入るなり、私の目はキョロキョロと周囲を見回し、この空間にいて欲しくない人間はいないかをチェックした。そして必死に平静を装い、自分の置かれている状況に適応しようと努めた。

共同浴場につかる前に、それぞれ体をぬらし、石けんできれいに体を洗う。頭を洗ってもよい。実のところ、体を洗っている時でさえ、私はまだ戸惑いを隠せずにいた。共同浴槽に入るという意味を閉じこめてしまいたいという思いと恥ずかしさから、長いこと時間をかけて体を洗ってしまった。日本の友人は、早くお風呂につかるように大きな声で私を呼んでいるというのに。

最終的には、体を隠したタオルをしっかりと握りしめながら、お湯の入った浴槽へと向かった。浴槽につかるその瞬間、パッとタオルはずした。浴槽のお湯は常に新しいお湯が入れられ、循環していた。

浴槽のお湯はただ温かいだけではなく、信じられないくらい爽快な心地よさで体全体を包み込んでくれたのである。そして窓からは圧巻の美しい富士の景色を楽しむことができた。私は自分の判断が正しかったと思った。

ということで、私はすべての方にお勧めしたい。日本に来たら、共同浴場へ行くことをお忘れなく。とっても気持ちいいですよ。

## ホストファミリーと過ごした思い出

ラヒマン  
(農業(水産業)グループ)

「知り合うことで思いやりの気持ちが生まれ、思いやることでいとおしい気持ちが芽生える」

これが3日間、日本人の家庭で過ごしたことを表現した言葉である。温かく、思いやりに満ちた、そして飾らない愛情に包まれれば、誰もが本当の家族と過ごしたような気持ちになるだろう。

初めの出会いは少し緊張し、その後楽しく、すっかりなじみ、ますます一緒に過ごしたくなった。その気持ちはホストファミリーの方にも見受けられた。表情が生き生きとしてきた。そしてお別れの時にはまるで大切なものを失うかのように、彼らの瞳には涙がたまっていた。

文化・習慣・言葉の壁はお互いの歩み寄りにより障害とはならず、もちろん多少の誤解は生じてもさしたる問題にはならなかった。外国人の私たちが感じることを、日本人も感じていたのだ。恥や見栄の文化、規律を重んじるなど、私はそこにインドネシアの先祖の文化との共通点を見いだした。だからこそ、日本人はインドネシア人に親しみを覚えるのだろう。

同じように、インドネシア人も日本人に親しみを覚えるきっかけとなるよう、ぜひこのJICAの青年招へい事業がこの先も継続され、若者たちの交流がますます盛んになることを期待している。

ブラボー！

## 不安と期待

ヘティ・ハルリサ・プラサスティ  
(中小企業経営グループ)

JICAが実施する青年招へい事業はインドネシアの首都でも地方でも若者たちの注目を集めている。このプログラムはとても興味深いものなので、多くの若い世代の人たちはこの活動に参加したいと思っているのだ。

だが、志願者には厳しい競争が待っており、このプログラムに参加することは簡単なことではない。参加申し込み後、1カ月近くたっても実行委員会から何の音沙汰もなかったため、私の心は穏やかではなかった。

ついに、私が選考を通過して日本でのプログラムに参加できることになったといううれしいニュースが届いた。行くべきかどうかというさまざまな思いが心の中で交錯した。

もし、行くとしたら家族、とりわけ子供をインドネシアに1カ月残していくための準備をしなければならぬ。私にはそのための心づもりがあるのだろうか。それにこれまで仕事以外に長期間家をあけたことがなかった。夫はこのプログラムに参加することを許してくれるだろうか。でも、もしここで行くことを断念してしまったら、チャンスは二度と巡ってこないかもしれない。それにこのチャンスを有効に使えば、私の仕事にも大変役に立つだろう。

私は夫から許しを得ることができた。家族も参加を勧めてくれたし、これで職場での仕事も片づけ、職務を残すことなく出発できそうだ。

このプログラムに参加することは、私にとって重要な意味をもつ。知識の向上や視野が広がることに加えて、日本の若者たちと友好関係を築くことができるだろう。それを理由に、プログラムに参加できるよう職場の上司に許可を得るのは実際それほど難しいことではなかった。

ただ、私が出発する時期はちょうど日本の雪の季節ということで、インドネシアの暑い気候に慣れていた私は、日本の気候になじめるかちょっと心配だった。けれども、そんな心配はすぐに消えてしまっ

た。

日本に着いてみると、日本の気候に慣れるまで数日かかったものの、私が想像していたほどたいへんではなかったからだ。日本は私たちをととても温かく迎えてくれた。

結果として、プログラムはとても楽しかった。私の数ある望みの中の一つがかなったことを神に心から感謝したい。

今回のようなすてきな経験をいつかまた得ることができるか分からないが、そうであることを願ってやまない。

---

## 雪

---

ソフィア・ウシュワトウン・ハサナ  
(行政グループ)

すべての人々が、街の隅々まで雪で覆い尽くされたおとぎの国、日本を体験できるわけではない。このおとぎ話の世界を現実に肌で感じ満喫できた私は、運のいい人間であったといえよう。長い道のりをたどり、疲労し、ついに私はおとぎの国にやって来たのだ。

しかし3日間の東京滞在は、雪を心待ちにしていた私をがっかりさせた。

やわらかくて真っ白い雪は、この街には降らなかった。1週間たっても雪は降らず、冷たくてふわふわした感触を今すぐにも実感してみたいという思いは、裏切られた。

祖国で雪に対して抱いていた思いは、それは美しいものだった。大きく広げられた真っ白い絨毯は日本を覆い、あちこちを白い山々に変えてしまう。

待ちこがれてもやってこないものに対してのやるせなさ、骨にしみいるような寒さだけを肉体に感じ、大損したような思いにさえなっていた。せっかく日本にまで来たというのに、寒さしか体験することができないというのか。

山梨、ここが私の心に特別な思い出を刻み込んでくれた場所であるといえよう。山梨、私の気持ちを癒し、これまでの夢をかなえてくれた場所。小さな雪の粒は、ゆっくりと降りてきた。夕暮れ時は、そ

れは格別であった。自分の目で見て、指先で、素肌できめ細やかな雪を感じた。やわらかくて、白くて、けがれない、そして白くて。アッラー、偉大なる神よ。比類なき美を創造された、偉大なる全知全能の神よ。人生において初めての体験。一生忘れることのない感動。

雪は、ゆっくりとそして静かに降り積もり、道や木々、家々を覆い尽くしていった。一面純白に覆われた世界のなんと美しいことか。水平線から光がさし始め、夜明けのパノラマは、いっそう美しさを増していった。富士は雪に包まれ、光は乱射し、太陽は微笑み、新しい一日を迎え入れた。雪に反射した光は、私の内面に永遠の景色を刻み込んだ。これこそが、まさに神の偉大さであろう。

---

## ホームステイの思い出

---

ギタ・ディナルサンティ  
(地域振興グループ)

北海道・帯広での2泊3日の長屋栄二さんのお宅でのホームステイ体験を話したいと思う。

ホストファミリーのお父さんにホテルまで迎えに来ていただき、ホームステイする家に行く前に、郵便局に行き手紙がどんなふう自動的に配達されているのかを見た。

栄二さんのお宅ではかわいい2匹のプードルが歓迎してくれた。しかし、私は犬が怖かった。

栄二さんの家での私のお気に入りの場所は、トイレ。どうしてかというと、暖かいからだ。特に便座に座っている時がとても気持ちがいい。帯広の寒さには、ぴったりだ。

日本人のお客様のもてなし方も印象的だった。私はお客として特別扱いしてもらった。お寿司にも感激した。たぶんこれが、私にとって最初で最後のお寿司になると思う。

私はインドネシアのクルブック（えびせん）を揚げた。栄二さんの家族はインドネシア料理が気に入ったようだ。

これは私が話したかったことほんの一部分だが、ホームステイの体験は忘れないと思う。栄二さ

んの家族に感謝したい。

いろいろありがとうございました。ご恩は忘れません。私の国に来てください。また会いましょう。

## ■ アジア

## □ ラオス

### 未来へつながる体験

キングマノ・ブートウサヴァト  
(ASEAN混成 教育行政グループ)

「人は得ることで生計を立て、捧げることで人生を創る」

JICAの青年招へい事業でASEAN混成教育行政グループの一員として28日間日本に滞在し、多くの貴重なプログラムに参加した。日本人は心が温かく、心から客をもてなし、時間を守る。私は日本人から物事をよりよく行うことを学んだ。

滞在中の忘れ難い思い出は、長良東小学校の児童との交流、そして一緒に給食を食べ、牛乳を飲んだ二葉小学校の2年生との交流である。

プログラムのハイライト、ホームステイは、日本文化を直に知る最高のものであった。人々は温かく迎えてくれ、川島町でのホームステイは忘れられない体験となり、日本文化に対する洞察力もついた。

箱根の合宿セミナーでは日本の青年たちと意見交換や有意義な討論ができ、日本人と良い関係を築ききっかけとなった。

これらの貴重な体験は私にとって素晴らしいもので、ぜひラオスに持ち帰ろうと思う。

最後に、JICAとこの貴重なプログラムに携わるすべての方々にお礼を述べたい。

素晴らしい機会と楽しい思い出を与えて下さり、心から感謝している。

どうもありがとうございます。

### ありがとう、岩手県!

アンポーン・スックウィサイ  
(地域開発グループ)

私は青年招へい事業の参加者として、初めて日本を訪れた。

特に岩手県を視察できたことは、たいへん幸運だったと思う。この滞在により私たちは、岩手県にお

ける地域開発政策や日本人の日常生活、文化習慣に触れることができた。

私にとって忘れられない思い出となったのは、ラオス青年と日本青年とが心をつにし、かけがえのない友達となれたことである。これは全世界の青年がお互いに助け合って、より良い世界を創造することができるかと証明したのではないだろうか。

特に印象深かったプログラムは、元県職員であった桑原イト子さん（69歳）の講義だった。彼女の勤務における実体験から得られた言葉だった。

「どうすれば、貧困から逃れられるのだろうか。それは、さまざまなことを勉強し知識をつけた上で、貧困や社会問題を解決しなければならないと思う。解決するには、その問題に最適な方法を見つけなければならない。しかし、いちばん重要なことは、お互いに団結し助け合い、男女平等であることが必要である。もし、これらを達成できた時、苦難から脱することができるだろう」

母親のような桑原さんの言葉は、私たちにとって、非常によい道しるべとなった。

私たちは岩手県を離れたが、心はまだ岩手県に残してきた。岩手の景色を懐かしく思い、岩手の方々の温かい交流を懐かしく思う。

将来、岩手県を再訪する機会はないかもしれない。しかし、私たちは、今回の視察で得られたいろいろな知識を大切にしていきたい。私たちの研修、交流の場所としての岩手県をこれからも忘れない。

ありがとう！ 岩手県！

## ■アジア

### ■マレーシア

## 日本の体験と印象

マット・アジム・ビン・ダルマン  
(行政(中央行政)グループ)

日本は高い技術と世界でも驚くべき強い経済力を有する国である。第二次世界大戦で敗戦国になってから、日本は眠りからさめた巨人のように立ち上がった。

青年招へい事業に参加できたことは、驚異とも思える日本の真の姿が明快になり、体験できたので、たいへん幸せなことであった。

東京は忙しい都市だったが、日本社会の秩序は守られていた。シャイな、しかし親切な日本人社会に接して、私の希望は日本を一層深く知りたいという希望に変わっていった。

武道、イルカショー、野辺地町の特別養護施設訪問などの体験はとても楽しいものであった。そして、その特別養護施設を訪問した際、一人のおばあさんが私のことを子供のようだと行ったのであるが、それは心が刻まれるような思いだった。

また、クリーンペアはまなすというゴミ処理施設を見学した際、普通、ゴミといえれば必ず嫌な感じを抱くものだが、そこはまるで違っていた。

2泊3日のホームステイの機会は待ち遠しいものであった。与えられた期間はたったの3時間のようによく感じた。というのは、素晴らしいホストファミリーや地域の方々と、たいへん親密になることができたからである。

食べ物に関しては、友達の中には適応できない者もいたけれども、私はとても食欲をそそられた。私にとって自慢だったのは、民族衣装を着て、マレーシアの踊りや、歌を通して、国の文化を披露することができたことである。日本人の皆さん全員に知ってもらうために、そこでコンサートを開きたい気分であった。ビルのスクリーンに映し出される映像は、初めての経験で不気味であったが、そのうちに見るのが楽しみになっていった。

私の理解していた日本人は、最初に感じたシャイな人々である。しかし、一度知り合うと、たいへん

親密になる。日本が私にもう一度戻ってきて、また自然や人々と親密になるようにと招いているようだ。

## 参加者の体験

ユスニ・ビン・ユソー  
(農業(水産業)グループ)

私たちが初めて成田空港に足を踏み入れた時、親しみにあふれた日本人の笑顔が私たちを待っていた。

東京国際研修センター（TIC）での日本語学習を終了した時、私たちは皆、日本人と日本語で交流できるという自信に満ちていた。

「スママセン、アリガトウゴザイマス、オハヨウゴザイマス、コンニチワ、コンバンワ」等の日本語は、私たち参加者の口をついて出る歌のようになった。

東京の街を散策した時、地下に巡らされた道路の雑踏に驚き、思わず迷いそうになった。しかしながら、「スママセン」と「アリガトウゴザイマス」の言葉のおかげで、時間を追われるように忙しい日本人も、私たちを親切に助けてくれた。

水産分野を専門とする私たちは、日本人が魚と海産物に非常に密接な関係を持って生活しているという状況を、自ら体験することができて、たいへん感激した。私たちが日本に滞在した1カ月間に、ハシを使って食べる“サシミ、スシ”は、私たちにとって公認の食べ物となった。これらはすべて、海からの産物なのである。このことからまた、私たちは日本人と漁業を基礎とした食料資源の関係は、なんと強いものだろうと感じさせられた。

私たちは、温泉にも行った。温泉はお風呂のような熱さではないと思っていた。ところが、その熱さときたら私たちを「スプリング」のように飛び上がらせるものだった。

新しい流れに生きる若い世代である私たちにとって、大切に、かつ深く心に刻まれたメッセージは、見学旅行で訪れた広島で受け取った。私たちは、広島の出来事が二度と繰り返されないことを願う。そ

して、この世界の苦い経験となった事実は、永遠に歴史に織り込まれていくのである。

日本に滞在したのは1カ月ではあったが、私たちは時間が過ぎゆくことをなんと早く感じたことであろう。このように発展していても、まだ東洋の文化を残し、私たちの希望でもある日本は、今、私たちにとって第2の祖国となったのである。

## 験に心にいつまでも...

ノルハナ・ハシム  
(中小企業経営グループ)

他国で日常生活を送るという経験は、母国でのそれとは同じようにはいかない。日出づる国・日本に在る間、たくさんの新しいことを学ぶことができた。日本人の文化、時間を守ること、勤労姿勢、考え方などを身近に学ぶチャンスであった。最も大事なこれらのことは、どこへ行ってもお金では買うことができない。

時々、言葉の問題が日本人青年と交流する際の障害にはなったが、それは決して大きな問題ではなかった。私たちは、『にほんご21』という本をうまく利用した。日本人青年のユキさんと一緒に大阪の街に出掛けた時も、私はその本を持ち、雨で濡れるまで使った。短い間ではあったが、ユキさんと楽しい一時を過ごした。

「日本人は国と共に発展する」という言葉が大阪から東京へ向かう新幹線で外の景色を眺めている時に、隣にいたマレーシアの友達から出た。国民水準を向上させるような独創的技術が日本の各所から見られる。

「験に心にいつまでも」、これが日本に在る間の経験を表現するのに一番ふさわしい言葉だと思う。知らなければ思いは募らないが、一度知れば帰りたくなる。帰国後は、いままで積み重ねた知識と経験を活かしていきたいと願っている。

## 日本社会の行方...

カルヤティ・ビンティ・ハッサン  
(理数科教員グループ)

「日本は世界において経済、科学技術大国となった先進国の一つである」

この事実は私が日本の地に足を踏み入れる以前にすでに知識としてあったが、実際に日本に1カ月滞在してみて、それが真実であると私は確信した。

何かを勝ち取るために多大な努力を払う日本人の国民性に私は感銘を受けた。第二次世界大戦後の55年の間に日本は国を発展させ、先進国にまでなることができた。戦争の影響が日本国民にとって、国の威信を高め、国民の暮らしをより意味のあるものにしてという推進力になったのは明らかである。高い人口密度、乏しい鉱物資源、限られた農用地といったファクターもこうした日本人の国民性を際立たせるものとなった。そうしたことから、日本国民はその勤勉性、努力家精神、時間厳守、自立心、創造力、規律、威信を重んじ、保つ意識といった特徴で世界に知られることになった。

55年がたった現在、若い世代は父母の世代の誠意と努力の結果である豊かな暮らしを享受している。しかしこのことが、一部の若い世代の間で日本人の特性を喪失させる要因となっている。西洋の価値観に流され、そのために日本社会の伝統的な価値観が消滅しつつある。だが、その一方で、生きることの真の意味を探し求めている若者もいる。信仰、神との繋がりを通じて意味のある生き方を模索する、そうした動きは日本ばかりではなく、ほかの先進国にも見られる現象である。人類の「サバイバル」には、ただ単に物質的な必要性を満たすだけで事足るものではない。より大切なのは、私たちの精神が何を欲しているのか、あるいは精神的幸福感、心の平安とは何か、その答えを見つけ、そしてそれを手に入れ、満たすことなのである。このことについて一緒に考えていこう。

## 手をさしのべよ、そして 友情を築け...

オマルシタ・ビン・ルスタム  
(地域振興グループ)

「大地あるところ、空は広がる」というマレーシアの諺が、どこにいても私の指標となった。2001年1月18日、日本の地に足を踏み入れて以来、私の気持ちは寂しさと喜びの入りまじったものとなった。寂しさというのは、家族と別れなければならなかったこと、喜びというのは、日出づる国・日本の地に足を踏み入れることができたことである。

私が参加したどのプログラムも、十分興味深く、またどの訪問も必ず私の興味をひくものであった。寂しさは用意されたプログラムの一つ一つに自分を適応させているうちにだんだん喜びに変わっていった。確かに言葉の違いはあったけれども、責任をもって自分の任務にあたり、うまく通訳してくれたコーディネーターは、表現できないほどの期待感を私たちみんなに抱かせてくれた。すべてのプログラムがきちんと用意され、時間厳守等の規律にも考慮が払われていた。プログラムの運営は完璧で、日常の仕事の分野において十分参考にできるものであった。プログラムと共に過ぎた日々は決して忘れることのできない思い出である。

地域社会の温かさは、文化、技術、技能についての知識をたくさん与えてくれた。ホームステイプログラムを通じて、親切な気持ちや、しっかりした家族の絆をもちながら、尊重し合うという東洋の特徴を持った地域生活のあり方を、まざまざと見ることができたように思う。ここで、プログラムをこのように成功に導いて下さったJICA、日本経済青年協議会、しょうばら国際交流協会、青年会議所、ホストファミリーの皆様にご心からお礼を申し上げたい。そして、このプログラムがずっと続けられて、より多くのマレーシアの青年たちがたくさんの知識を得ることができ、日マ両国の友情の絆がいつまでも続くことを願っている。

## ■アジア

## ■ミャンマー

## あるASEAN青年の見た日本

ミヤ・トウ・ザー  
(ASEAN混成 保健衛生(保健医)グループ)

日本での滞在は短いものだったが、素晴らしい旅となった。日本の文化や伝統、そして保健・福祉活動について学ぶ機会に恵まれ、また、京都や広島のような多くの歴史的な所を知ることができた。日本は世界でもトップクラスの先進国でありながら、自国の伝統を大切に守り続けてきた。

原爆の犠牲者である広島の歴史は、日本人にとって、また世界中の人たちにとって、決して忘れてはならないものであり、私たちは二度とこの世界で原爆による惨劇を繰り返さぬよう、注意を払わなければならない。

私たちは、日本とASEAN諸国、双方が持っている知識や経験を共有することができた。

日本は他国の発展のために、資金供与や貸与、技術協力、専門家への研修・援助、支援ボランティアの派遣などを行っている。日本政府は開発途上国に対して、多大なODA（政府開発援助）を提供し、また世界中のNGO（非政府組織）への支援も行っている。

JICAは私たちのために、できる限りのさまざまな活動の機会を提供してくれた。

私たちにとって、日本での滞在はたいへん楽しく快適なものだった。そしてこれが、日本とASEAN諸国間の友情と相互理解をさらに育んでいく契機となると信じている。また、JICAの事業が今後も成功裏に末長く継続されることを願っている。

## 日本での28日間

ソウ・ミヤツ・モン  
(教育グループ)

私たちミャンマーの教育グループは2000年10月25日にJICA大阪国際センター（OSIC）に到着した。

大阪では、「日本人と日本の社会」、「日本の教育史とシステム」、「日本の学校教育の現状」の各講義を受け、講師の先生方との意見交換も行われた。

都内プログラムでは、佐島マリナーでの日本青年たちとの合宿セミナーに参加し、日本の学校では教材が充実しており、規律正しく教育が行われていることを知った。また、中学校見学の際にも、生徒が学校での行事をきちんと班ごとに分担して行っている様子を見学できて、うれしく思った。

そして、鎌倉大仏を参拝して、至福の気持ちを味わうことができた。

私たちは日本で国立民族学博物館、NHKスタジオパーク、ガスの科学館、三菱自動車水島工場、倉敷ライフパーク、倉敷市立中央図書館等を見学して、ぜひ日本を見習って私たちの国の科学技術・知識も進歩・発展させたいと感じた。

広島市を訪れた時には原爆の犠牲者に対してたいへん胸が痛み、深い哀悼の念を寄せたいと思った。ホームステイプログラムでは、日本の家族の温かいもてなしぶりがとてもうれしかった。

私たちミャンマー教育グループは日本での研修期間を通じて、見習いたい気持ち、幸福な気持ちを感じた。しかし一方で、日本の青年や子供たちの英語力が決して十分ではないことを知った。すべての分野で発展を遂げている国である日本にとって英語は重要であると思うので、日本は現在よりもさらに研究して英語教育を進めるべきではないだろうか。

## ■アジア

## ■フィリピン

### 心から心へ

エイミー・マリー・チャーメン  
(教員(理数科教育)グループ)

私たちフィリピン青年は、非常に限られた日本語しか身につけていなかった。習った言葉を全部覚えておこうとしても、出てくるのはほんのわずかだ。

まず「すみません」、次が「ありがとうございます」。もちろん一番よく登場するのが「トイレはどこですか?」「高校の教師です」という言葉は、全員の頭に刻み込まれているだろう。暗記して自己紹介のたびに何度も繰り返した表現だったから。今になって思えば、テープレコーダーに録音しておくべきだった。いつ聞き返しても大笑いになったことだろう。

私たちは皆、日本での滞在は「どうぞよろしく」の一言ですべてが通じるものだと思っていた。でもそれは、日本とフィリピンの美しい出会いの始まりに過ぎなかった。「どうぞよろしく」という表現は、お互いを理解するための出発点を表しているだけで、この言葉のあとに続く事柄のほうをはるかに重要だったのだ。同時に、言葉のやりとりだけがコミュニケーションの手段ではないことにも気づかされた。

話す言葉よりもはるかに重要だったのは、私たちフィリピン人を外国人としてではなく、パートナー(仲間)として歓迎して下さった日本人たちの友情だった。単なる訪問客ではなく、家族の一員として受け入れられていると感じさせてくれた皆さんの表情としぐさは、どんな言葉にも代えられないものだ。

日本の方々の親切な行為や私たちが理解しようとする姿勢に接して、文化の違いはあっても日本とフィリピンが同じアジアの伝統を共有していることを実感し、心を動かされた。

また多くの言葉を要しなくても、日本の先生たちの中に、私たちとよく似たビジョンを抱いている仲間を見いだすことができた。それは母国の明るい未来のために、適切で質の高い教育を通して、若者を

教え導くことだ。

家庭とは、どの国でもその土台となる一人ひとりの市民を慈しみ育てるという機能を担っている。そうした家庭の姿をホームステイの受け入れ家庭の中に見いだすのに、言葉は必要なかった。国境のない世界を作りたい、戦争のない世界にしたい、世界を一つにしたい、などの夢を語るのに、言葉の違いは障害にはならない。

言葉の障壁はたいした問題ではなかった。それは最善のコミュニケーション手段である「心」で気持ちを伝え合うことができたからだ。

### 27日間の日本滞在

マリア・メルバ・バラテロ・ウィー  
(農業(水産業)グループ)

日本に着いた夜、冷たい春風が私たちを迎えてくれた。神秘的な街の明かりを眺めると心が温まる以上の感情がこみ上げた。日本は巨大な一都市で、東京のようなペースの速い所でも小鳥の避難所となる街路樹がある。国中が開発されている。日本は豊かな文化と伝統を有している。日本人は愛国心が強く自国語に誇りを持っている。仕事場は男性のほうが多い。社会基盤、特に道路、絵のように美しい橋、そして島と島、世界をもつないでいる交通機関はすべて印象的である。

日本にはきれいなままの湖や海辺があり、人々にうまく利用されている。山は緑がいっぱいで涼しくて気持ちが良い、森は松やカエデ、竹で覆われている。日本人は友好的だが容易には打ち解けない。とても時間に几帳面だ。時間はとても大切で判断の基準にさえなる。

農民や漁民は進んだ科学技術を使っており、法的権利を持っている。彼らは簡単に情報を得られるし、信用販売や取引もできる。

その活動は同時進行である。協同組合はとてもしっかりとした組織であり、効果的で効率が良い。農業と漁業はみごとに機械化されている。

日本人はかわいいものが好きだ。プティックやデパート、電車やバスの駅でも売られているものはみ

なきちんときれいに包装されていて、包装材料そのものが売り物かと思われるだろう。

27日間の日本滞在はとても楽しかった。この実り多い友情プログラムに共に携わった日本の方々やフィリピン政府への感謝の気持ちは言葉では言い尽くせない。私をいつも支えてくれている夫、そして、なんといっても全能の神に感謝する。彼の助けがなければ、日本という素晴らしい国の美しさや恩恵に浴することはできなかったのだから。

---

## 私の中の日本

---

レイラニー・ティウ  
(中小企業経営グループ)

私は大阪、東京、山梨、広島、京都に滞在して、毎朝、静寂と平穏の中で過ぎていく日本を見続けてきた。静けさの中で、この貴重な体験が実感として胸にこみ上げてくる。

私は見知らぬ国、人々、言語、そして文化を自分の目で見てみよう、自分の背を押すようにして、日本にやってきた。しかし、私を迎えた風景や音は、私の多大な想像をはるかにしのぐものであった。人と自然が調和するこの美しい国に、私は驚かされ続けるだろう。庭、木々、色とりどりの花々は、都市から地方に至るまで、私たちの目を楽しませてくれる。

河口湖で日本人青年が見せてくれたパワーには驚いた。彼らと作り上げた友情は、生涯大切にしたいと思う。共通の夢や希望、問題や関心事を一緒に考えたことは、心に残るものであった。

日本が国際的な技術立国であることは、既に知っていたが、日本人が実際に見せる静かで威厳に満ちた態度に、私は謙虚な気持ちになり、また尊敬の念も抱いた。

ホストファミリーは心を開いて、私を家に迎え入れ、私を抱きしめてくれた。このことは私の旅の中で、最も忘れられない出来事である。私は、日本人というのは堅い性格で、閉鎖的であると思っていたので、このように温かく、細かい配慮でもって理解され、受け入れられるとは予想もしていなかったの

である。

しかし、日本で得た最も大切な教訓は、平和であった。人間が人間に対して行った最もひどい行為である戦争によって、多くのものを失った国で、その状況に対していかに立ち向かっていくか、そのことに心から称賛する。

国家の再建と人の尊厳の回復への挑戦は、最大の決意をもってなされることだろう。私は、このことを振り返るたびに、常に広島、そして戦争の血なまぐさい傷跡を、平和と自由の戦いを自分なりに体験してきた一人のフィリピン人として、思い出することだろう。

私は、世界平和とすべての大量殺戮兵器の禁止を追求している日本人の後をついていきたい。

私の日本への旅は結局、感情に満ちたジェットコースターに乗るようなものであった。楽しみ、笑った後で、興奮と帰国の準備の最中に、私は心をいっばいにして日本を離れる。私は滞在中に感じたことの深さを決して忘れない。日本人との思い出、それは洗練された東京の人々から素朴な私の山梨のファミリーまで、生涯私の心への奥深くに刻まれるだろう。

企業訪問や意見交換をすべて終えて、いちばん大切なことは一生持ち続ける互いへの理解と友情であると思う。当初、友情を育むのに最も障害となると思っていた言葉の壁は、壁ではなかった。橋をかけることを決意した両国の人々の真剣さの前には何の問題でもなかった。私は日本でのよい思い出をありすぎるぐらいたくさん抱えている。思い出を振り返るのには十分な時間が人生にはある。私はこれからも振り返り続けるであろう。

---

## 日本に来て考えたこと

---

マリー・アンジェリー・C・ヴィラバンド  
(行政(中央行政)グループ)

規律を重んじ、比類なき高い勤労意欲の国、長い歴史と伝統の影響を色濃く残しながら、発明や発見で絶えず世界を先導する国、日本とはそういう国だと来日前は考えていた。

青年招へい事業で中央行政グループの一員として、1カ月近く滞在して目の当たりにした日本は、期待に違わぬ印象深い国であった。エネルギーあふれる大都会東京、のどかな落ち着きに包まれた新潟、効率的に整備された社会基盤、毎日が新しい発見の連続で、さながら万華鏡に魅せられた子供のような気分であった。

しかし、私は不思議の国のアリスにとどまらなかった。日出づる国を深く理解し、正しく評価できるようになったのである。コーディネーター、講師、ボランティア等青年招へい事業関係者から地下鉄駅の職員や商店の店員まで、私が出た日本人すべてに共通することであるが、機械のように正確にできばきと仕事を処理すると同時に、私たちが何を欲しているか、常に温かい心配りを示してくれた。

迷子の私に宿舎へ帰る道を教えてくれた店員さんのように、面倒でも困っている人を助けようという日本人。

私たちフィリピン人を温かく迎え、家族との時間を犠牲にしても国のために尽くしたいと話すセミナー参加者のように、個人の欲望を超えて国を思う日本人。

私を娘のように温かく家庭に招き入れ、日本文化を紹介してくれた私のホストファミリーのように、日本の伝統文化に誇りを持ち、その価値をよく認識している日本人。

広大な水田と工場が共存している新潟県の人々のように、急速な工業化の流れの中でも、生命あるものを尊び、自然環境の生態的均衡を保持しようとする日本人。広島長崎の苦い教訓が、風化することなく永遠に人々に記憶されるよう努める日本人。

なんといっても、日本人一人ひとりが、自己犠牲の精神を持ち、規律を重んじ、今日の日本が国際社会に占める地位を獲得するまでに払った代償を忘れず、日本を現在の日本たらしめている基盤ともいえる個々の家庭の重要性を認識し、その絆を守りより強くしようと努めている。

今回幸運にも日本を訪れる機会を得て、このような日本人精神の神髄に触れることができ、たいへん感謝すると同時に、日本での貴重な教訓を母国の人々にできるだけ伝えていきたいと考えている。

## 一期一会 (二度とないことだから)

地域振興グループ合作  
(地域振興グループ)

地域振興グループのメンバーの出身地はフィリピン全国にわたり、それぞれのバックグラウンドもさまざまだった。それまで面識もなかったのに、日本へ旅立ったとたんに魔法のように、仲間のつながりが一瞬のうちに生まれた。

その後28日間、この新しい友情は、笑ったり、泣いたり、冗談を言い合ったり、共に歌ったり、日本語を一生懸命練習したり、素っ裸で温泉につかったりしながら(しかしフィリピン人としての誇りは失わず)育まれていった。

日本の美しさ、豊かな文化に畏敬の念すら覚え、また日本人は根っから優しい人たちなのだということも分かってきた。フィリピンのそれぞれの地域と比較しながら、日本の地域振興における独自性、類似点、相違点を深く広く学んだ。好奇心の固まりの私たちは数限りない質問を講師にするので、通訳が時間外労働になるのではないかと、私たちのコーディネーターは心配した。

いちばん大事なことは、この二度とない機会の思い出を永久のものにするために、景色や出来事の写真を必ず撮ることだった。

帰国便の荷物が重量超過になる懸念もなんのその、行く先々で記念のお土産を求めることを止めなかった。

私たちが歌好きで陽気なのを、軽いと誤解する人もいるが、どんなにつらい時でも楽しそうに臨機応変にふるまうのが、フィリピン人の気風であることを知る人は少ない。私たちの場合、バスで移動中などの自由時間を仲間意識づくりに、また歌の才能を披露するために利用した。しかし、決してハメをはずしたりはしなかった。しっかりできるだけ多くのことを吸収しようとした。

いつか、グループの仲間、日本人を問わず、知り合いになった誰かに再び会うチャンスがあるかもしれないが、同じシチュエーションは二度とない。や

るべきことはすべてやった。

青年招へい事業の目的に沿って、この機会をフル活用したのだから、悔やむことなどあるはずもない。関係各位に感謝あるのみである。

日本の昔を伝える美しい寺院は私を過去の世界へと誘ってくれた。

これらすべての意義深い経験から、国家間の調和が未来の世代を築いてくれると結論づけたい。

## 意義深い出会い

アルバート・ディゾン・メンドーサ  
(ASEAN混成 科学技術グループ)

書物や新聞で日本の豊かな歴史や文化を学んでも、その美しさを十分味わうことはできない。日本滞在での実際の経験こそが視野を広げてくれる。

ASEAN混成科学技術グループ24人の一員として、JICA、(財)豊川市国際交流協会（TIA）が実施したプログラムに参加できたことはこの上なく光栄である。

インドネシア、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、タイ、そしてヴェトナムの言語と文化を代表して来日した私たちは、青年間で各国の言葉を教え合うことによって語学力を高め、互いの文化的習慣から共通点を見いだすことができた。短い間ではあったが、日本語を学んだことも大きな喜びであった。

ホームステイ、合宿セミナー、ショッピング、レストランでの注文、旅行や日本青年との交流といった実践的なプログラムは、難しくもあったが日本語を使う刺激となった。それ以外でもすべての出会いを私は楽しんだ。

合宿セミナー、ホームステイ、そしてディズニールランドで日本人々と時間を過ごしたことにより、日本文化に対する知識が大幅に広がった。共に過ごした時間は限られていたが、宝となる思い出である。日本の経済発展に貢献した主要企業の訪問は、持続可能な発展を支える労働に対する見識を与えてくれた。自分自身のみではなくほかの人々にも糧となる技術。多くの国が利益を得る技術。

広島に立ったことにより原子爆弾の猛威を体験した人々への尊敬の念が生まれた。長年にわたる彼らの苦悩は、私に人生の大切さを気づかせてくれた。

## ■アジア

## ■タイ

### 青年招へい計画に参加して

ミーナー・タマチャイピネート  
(中小企業経営グループ)

青年招へい事業で1カ月間、日本を訪問することになった時、私たちはまるで自分の人生に一つの夢が増えたようにたいへんうれしく感じた。

東京の高層ビル、雪に覆われた富士山、春は満開の桜の花、若者たちの目を引くようなファッション、そしてテレビでしか見たことのないサムライや一休さんやドラえもんを思い浮かべた。そして今、それがまもなく現実のものとなるのだ。私たちは、夢に見ていた日本に実際に触れるために、自分の身の安全を守れる程度の日本語を事前に勉強し、仕事を一時休むことにしたのだ。

日本は、戦争ですべて最初からやりなおさなければならないほどの大きな損失を蒙ったにもかかわらず、予想を超えた復興を成し遂げ、アジアのどの国よりも発展したのはなぜだろう。

日本は、多くの国に援助金を出し、なお決して少なくない金額がかかるのに、何の条件もなく私たちにこのような機会を与えてくれるほど裕福になれたのはなぜだろう。

日本人は、ほかの人が思いつかないようなことや、ほかの人ができるとは思わないようなことをすることが、なぜできるのだろうか。

私たちは心の中にこのような疑問をたくさん持っていた。

バンコク国際空港から関西国際空港までは、ほんの5時間でしかないが、このような私たちの見たい、知りたいという好奇心で、その時間はとても長いものに思われた。

日本に来て最初のころは、私たちは北も南も分からず、どうやって食べて寝ればいいのかも分からない、迷った小鳥のようなものだった。たった一つタイから持ってきた武器があるとすれば、それは「微笑み」だけだった。JICAは、私たちの面倒をよく見てくれ、そんな私たちも少しずつ慣れ、日本で身の安全を守れる程度には強くなることができた。

そして27日間の時が流れ、あと数時間でタイに帰国のために旅立つ時間となったこの時に、私はこの文章を書いている。私たちは日本の印象をすべて人々に伝えることはできないかもしれない。けれど、すべての場面は私たちの心に深く印象付けられたことは確かだ。

そしてさまざまな感情が同時にわき起こってくる。時には、タイ料理が恋しくなったり、ホームシックになったりもしたが、日本を離れたくない感情も同時に生まれている。待ち受けた仕事や責任が私たちに、時が来たらここを離れなければならないことを告げる。なぜなら、ここは私たちの国ではないからだ。私たちは時が来たら離れなければならない、単なる訪問者にすぎないからだ。私たちは、「日本の真実を実際に見たら、そのいい部分を自分たちの国のために利用してほしい」という歓送会で青山富士彌さんが私たちに言った言葉を思い起こす。そうだ、私たちは、日本人の仕事の仕方を学び、最先端のテクノロジーに目を見張り、土地と機械と人材を効率よく利用する組織の運営に感心し、企業の経営者たちの聡明さと信頼を受け得るだけの個性に感銘を受け、そして文化や生活や価値観や考え方の違いを学ぶことができたのだ。

大浴場での友人たちとの入浴のことは何度も思い出す。私たちにとても珍しい経験だった。また、グループの人数を数えたり、道を尋ねたりして、私たちの行く所どこでもひと騒ぎある電車の旅も思い出し、笑いをこらえられないような楽しいことばかりだった。けれど言葉の障壁はあるけれど、日本人は優しさを持ち、私たちがいつもよく助けてくれた。

青年招へい事業に参加した経験は、私たちにとてもたいへん有益で価値のあるものだったと言えよう。

JICAと関連団体には、私たちにすべての面で最良のものを用意していただいたことに感謝している。日本での27日間は私たちの素晴らしい思い出としてずっと残ることだろう。

## 夏の日思い出

マユラチャット・プラティト  
(教員(小学校教員)グループ)

2000年5月31日から6月27日まで、私は教員グループの一員として青年招へい授業に参加した。海を渡って空港に近づくにつれ、日本の形がくっきりと眼下に広がってきた時の感動は今でも忘れられない。日々のプログラムは有益かつスムーズに行われ、私たちはコーディネーターや関係者の皆様から内容ばかりか仕事の進め方まで学んだ。これはとても意義深いことだと思う。

多くの関連講義や同業種の青年たちとのセミナーは、見識を広め将来への指針を得た。また、いずれの訪問先でも温かい歓迎を受け、国賓のようにもてなされたことは印象深い。小学校の児童たちに満面の笑みで出迎えられ、その光景は私たちの臉に深く焼き付いている。また、学校を去る際には、子供たちがその小さな手を振りお別れをする光景は、感激せずにはいられなかった。笑顔があれば、言葉や文化の違いは友好にとって何ら障壁にはならないのだと、私たちは知った。

さらにホームステイでの新しい家族との団らん、私たちの心に忘れ得ぬ思い出として刻み込まれた。

私たちはタイの多くの友人たちにこの経験を伝え将来に生かすとともに、日タイの友好関係構築のための一助になりたいと考えている。このプログラムに参加して得られた経験は、どんな勲章よりも価値があるものだと思う。

私たちは日本を離れるが、美しい両国の友好はこれからも永遠に続くだろう。

## 日本についての想い

ウィクロムマナット・ウアウイトウーティッド  
(農業(水産業)グループ)

日本に1カ月間滞在して、多くの施設を見学し、海に囲まれ多くの山並みに囲まれた景色を楽しんだ。大きな山々に囲まれた中央は農地で覆われており、多くは田んぼである。

しかし、ここでは、田んぼに水牛の歩く姿は見えない。彼らはトラクターを耕作に用いるので、水牛を稲作のために飼う必要がないのである。代わりに大小さまざまな建物が建っている。このことは私にとってとても不思議な光景であるとともに、どんなに国が繁栄発達しても農業の価値を認めていること、つまり元々農業国家であった日本の原点を繁栄・発達の中でも失わないようにしているのだと思った。

これは自分の原点を忘れないようにしている日本人の特質を表しているようである。

道路が多くの山々の間を通っているが、山の周りを回り道できるところは回り、回らずに通る場合はどんなに遠い距離でもトンネルを掘り進む。このことは、そこにどんな障害があろうとも相手を尊敬し自分はへりくだり、また状況に従って物事を成功に導くために頑張る努力する日本人の姿と日本の繁栄の理由を見た思いがする。

日本人たちとの意見交換を通じて日本人たちが考えていることを深く理解することができたと思う。つまり日本人たちが自分の国をどういう国にしたいかということである。私の考えも同じようなものであった。夢かもしれないけれど、タイと日本が互いに友情で結ばれよりよい印象を持ち合うことである。

プログラム後半の見学旅行で広島平和公園を訪れた時、コーディネーターの言葉が印象に残った。この平和公園視察の目的は、被害者としての日本の原爆の被害を見てもらいたいだけなのではなく、戦争が引き起こす結果がどういうものであるかを見てもらいたい、というものであった。

最後にコーディネーターが、戦争を引き起こした

日本人の末裔として謝罪をし、私たちタイの青年に友情について考えてほしいと言った。私たち皆、戦争というものは引き起こした者、侵略された者どちらにも大きな被害をもたらし悲しみを引き起こすのである。だから共に生きて行くためにも平和というものは本当に大切なものなのであるということをよく理解することができた。

日本を離れ、生まれ故郷の国へ帰る時が来て、タイの友人や家族と再会することができるのはうれしいことであるけれど、お互いにいい印象を持っている人たちと別れるのは悲しいという複雑な気持ちでいる。

日本という国は、タイで言う5つの要素を兼ね備えた美女“美女の五相”を持った人にとえることができる。

つまり女性であればみんながそうありたいと願い、男性であれば誰もが伴侶にしたいと思う女性のことである。“美女の五相”とは姿形が美しく、裕福であり、学識があり、家柄の良さと上品さを備え、美德を備えたということで、日本そのものであると言えるだろう。日本は美しい自然に恵まれ、経済的に裕福であり、海洋資源にも恵まれ、高度なテクノロジーと知識を持ち、古くからの文化習慣を受け継ぎ、敬意と謙遜を知り、徳にあふれている。

日本を離れたらきっと懐かしく思うに違いないであろう。また、ぜひ日本に戻って来られたらと思っている。

---

## 青年招へい事業

---

サワパット・モンコンチャイ  
(行政(中央行政)グループ)

相手が生き物であろうとなかろうと、そのものの本質を見極めることは、時間がかかることである。そのものが実際に目に見える様子が、私たちの判断に大きな影響を与えている。日本は最新テクノロジーと世界経済のリーダーとしての顔を持つが、それ故、その裏に隠れている繊細さに外国人はしばしば気がつかない。

この青年招へい事業は、そういった日本の最先端

技術の裏に隠れている、繊細で精巧な日本文化を知る機会を与えてくれる事業と言ってよいであろう。この事業に参加した1カ月間、私たちはこのような日本の真の姿について学んだ。経済大国としての役割を果たす姿が顕著であって、西洋文化を取り入れながらも、それでも日本独自のものも持ち続けていることや、たゆまず勤勉に前進する中にも、さまざまなものの融合を調和のとれた形で行っていることなどだ。

これらのことは、私たちがホームステイで日本人の家庭の中に入った時、さらに確信するところとなった。たとえたった3日間という短い期間であっても、この経験は私たちにとって貴重な、ほかでは味わうことのできない経験となった。

プログラムがすべて終わった今日、この最終日に当たり、私たちは日本の公務員制度・行政制度についての認識を得られたと思っている。また、かねてからの疑問に対する答も得たと思っている。それは「このような厳格で統制の取れた制度を維持しているからこそ、資源も土地もないこの小さな国が、ずば抜けて大きな発展を遂げることができたのだ」ということだ。

第二次大戦の傷跡がまだまだ日本人の心に残っているが、だからこそ平和への強い祈願が生まれている。高い代償と貴重な犠牲を払った日本だからこそ、平和を世界に訴えていく役割を背負っていると思う。友好・平和は本当に大切なものなのだ。

この事業も、たとえ小さな交流であったとしても、平和構築に重要な役割を果たすことだろう。青年招へい事業に参加した私たちも、ささやかながら世界平和に貢献できたと自負している。

---

## 私はあなたをずっと忘れないよ

---

メーター・セーリータナーウォン  
(地域振興(地域社会開発)グループ)

「私はあなたをずっと忘れないよ」

これは、私のホストファミリーの安藤さんが最後に言った言葉だ。それと同時に私自身の思いもすべて込められた言葉でもあった。

2000年7月29日に、青年招へい事業で来日した一青年として、日本で受けたいちばん輝かしい、決して忘れることのできない瞬間だった。

その日はとても暑い日だった。私がホストファミリーのタクヤ君と一緒に野球の試合に行った時だった。試合は面白かったばかりでなく、試合を通じて子供たちはいろいろと学んでいることに、私は感銘を受けた。

その一つはみんながいつも揃って練習をしていることだった。予備軍もきちんと列に並んで、同じチームの友達に盛んに声援を送ったり、そのほかにも道具をきちんと整理したり、チームの全員がみんな協力して勝利を勝ち取ろうとしている気持ちがひしひしと伝わってきた。そこには命令をする大人の姿は見られなかった。一言の不平不満も少年たちからは聞こえてこなかった。突然交代させられても、不平も言わず、むしろニコニコしていたくらいだ。誰かがミスしても罵声など飛びかたりしないし、他人のせいなどにもしなかった。

残念ながら私のチームは負けてしまった。笑い声は涙に変わった。その後の反省会ではまだ子供のキャッチャーが、いちばん最初に口を開き、申し訳ないとあやまった。私も一緒に涙を流した。しかし、とてもすがすがしい気分になった。

そこでは誰を責めるわけでもなく、負けてもそれぞれの責任を十分に果たした満足感が、一人ひとりの子供の顔に表れていた。一生懸命野球をしていた人、予備軍でエールを送っていた人、熱心に裏方でお手伝いをしていた人、そして最後に責任を感じて、みんなの前であやまった人、みんな、みんな、とても素晴らしい！

私はみんなの素直な心を決して忘れないだろう。

## 私の日記から

スマナー・グーカンマーク  
(ASEAN混成 経済(貿易)グループ)

JICAの青年招へい事業で日本に滞在した間、時間がまさに飛んでいった。28日間は信じられないほど素晴らしかった。

まず、経済の勉強だった。貿易関係の機関や施設、例えば東京では通産省、JETRO（日本貿易振興会）、九州のアジア太平洋インポートマート、門司税関、肥後銀行、平田機工などへ行った。どこに行っても役に立つ情報があり、活発な意見交換もできた。訪問先のことだけではなく、ASEAN各国が違うということも分かった。

でも勉強ばかりではなく、旅行中には楽しいこともいっぱいだった。

JICAの青年招へい事業は、日本とASEAN諸国の文化について学ぶいい機会だった。大阪に着いてから毎日が目新しいことばかり。分からない言葉を聞きながら見知らぬ所にいるのは、なんてわくわくすることだろう。

まだまだ私の文化体験は続く。日本語の体験学習とか、山梨での合宿セミナー、福岡でのグループディスカッションもとても楽しかった。それぞれの出会いに特徴があって、いろいろな人に出会って、たくさんのことを話した。

でもそんな出会いがあって、人と人のつながりが強くなったし、日本人とASEANの人たちとの理解も深くなったのだと思う。こんなに短い時間でも、楽しい友情が生まれた。

カルチャーショックもあった。東京と大阪のなんてにぎやかなこと。道路や地下鉄の人の流れは途切れることなく、東京と大阪の街は眠りを知らない。どんなに夜遅くてもこうこうと明かりはついているし、人はいっぱいだった。

日本は先端技術だけではなく。この国には豊かな伝統も価値観も自然もいっぱいある。

ホームステイでは日本人の普段の生活がよく分かった。日本人は本当に親切でいい人たちだった。忙しいハイテク社会の中ではほっとするところだった。みんなが心を開いて私たちを家に迎え入れてくれたのだから。

私たちのために本当に一生懸命お世話してくださった団体やコーディネーターにとっても感謝している。あの人がいてくれなかったら、こんなにすてきなプログラムにはならなかったと思う。

日本に来たことは私の人生で、本当に忘れることができないことになった。これがきっかけで日本人とASEANとの友情が、永遠に続いていくに違いないと思う。

## ■ アジア

## ■ ヴィエトナム

### 旅の思い出

グエン・ヴァン・フン  
(教育グループ)

君と僕の出会い  
まさかあるとは思わなかった出会い  
遠く離れている所からやって来た出会い  
回っている地球が僕たちの出会いを作り出した  
れた  
僕は晴れた日に、日本に足を踏み入れ、  
そこに美しい思い出が生まれた  
夢のいっぱいあるこの土地は  
僕の心を大きく開いてくれた  
ずっと昔から知っているかのように迎えてくれた  
最も美しい日々  
幸せが僕を満たし、お互いを理解させてくれた  
時間よ  
なぜそんなに早く流れていってしまうのか  
僕たちの出会いを別れに変えてしまうのか  
君は僕に美しい微笑みとまなざしを与えてくれた  
限りない愛情は、僕の心に深く刻み込まれた

### さまざまな思い出と忘れられない思い出

ヴェー・チー・マイ  
(公務員グループ)

「ヴィエトナムから日本まで、遠く離れても気持ちは近い、富士山、チュオンソン山脈のように強固な絆だ」

この歌の歌詞は私たちが日本で暮らした28日間、ずっと私たちとともにあった。

自然、環境、風景、日本の友人たちの笑顔、そのすべてがみずみずしく、すがすがしいものであった。家族や故郷を思う寂しさを和ませてくれた。そして、さまざまな思い出と深い印象が私たちの心をいっぱいにした。

日本の友人たちは、一つ一つの笑顔、一つ一つの言葉で、私たちをまるで遠い彼方から久しぶりに帰ってきた家族、友人であるかのように迎えてくれた。「さよなら」と叫びながら手を振り、流れ落ちる涙。本当に皆が親しく、慈しみ合っていたのだ。

ヴィエトナムと日本の友情が触れ合う温かな雰囲気の中で、共に学び、互いの経験を共有し、さまざまな所を訪れた。いつでも、どこでも、満足な表情と笑い声は消えなかった。

日本は先進的な工業国である。日本の社会は、一つのシステムとして一時も止まることなく、正確に動き続ける大きな機械のようである。しかし、日本の友人たちがくれた気持ちや感情にそのような規律などないのだ。それは、ヴィエトナムに向けられた桜の国の人々の心そのものなのだ。

ヴィエトナムに帰っても日本で過ごした28日間のことを忘れはしない。過ぎ去った時間は元には戻せないけれども、みんなの気持ちは忘れ難い思い出となった。

ヴィエトナムと日本の友情が桜の花のように朱色に染まり、蓮の花のように香り立つことを祈りたい。そして太平洋の海の上で共に花を咲かせながら、平和を愛していこうではないか。

### 日本、楽しい日々

グエン・ティ・トウイ・ハー  
(経済グループ)

私は初めて富士山、そして桜の国といわれる日本に足を踏み入れ、できるだけ、いろいろなところを見るようにした。どこでも、よい印象が残った。

近代的な東京と大阪は、巨大な企業や政治、行政機関やエンタテインメントセンターが集まっている大都市である。伝統的な建築技術を用いて建てられた寺院を誇っている古い都でもある京都は、日本の歴史と文化を象徴している。

そして、目覚ましい速さで、原爆の残酷な荒廃から回復した広島に感服した。

話さなければならないのは、日本の食文化である。たくさんの食べ物に挑戦し、不思議に何でもおいしい

くて、しかもその工夫されたデコレーションも楽しんだ。

見学先での精緻な手芸品、優雅な生け花、勇壮な武道などに魅了された。

一つの屋根の下で同じ釜の飯を食べる3日間のホームステイで、家族の一員として迎えられた私は、まるで、ベトナムでの自分の家族と一緒にいるような温かい雰囲気の中で過ごすことができた。普通の日本人の日常生活を体験した、ホームステイでの貴重な思い出を大事にしたい。

講義を聞いたり、見学したりすることによって日本の発展過程についてかなり理解できたと同時に、国の発展のために尽力した日本人青年たちのことに感心した。わが国を建設するには、皆さんから学ぶことがたくさんあるだろう。日本に1カ月滞在した後、優しく、親切で、勤勉で、もてなしの心の豊かな日本人、そしてこの国の美しい自然と立派な文化的伝統の全体像がいつの間にか心の中で刻まれた。

また会おう！ 心深く思い出として残るさまざまな場所を再び訪れるだろう。そして私の親愛なる友人たちに再び会う機会が来るだろう。

そして、日本で経験したすべてのこと、私が見聞したことを皆に聞かせてあげたい。

JICAをはじめ、ホームステイの家族、熱心なコーディネーターの皆さんのおかげで有益な1カ月を過ごした。この交流で、日本人そして日本社会についての理解を深めることができ、前よりもずっと日本を好きになった。

## ベトナムの農業の発展方向について

ヴォ・ドゥック・チョン  
(農業グループ)

日本での短い滞在期間中に、私たちは農産物の生産状況、日本文化、そして日本人に触れるよい機会を日本政府、各組織・団体それに日本国民によって与えていただいた。この機会を通して、私たちは日本農業の発展ぶりを実感すると同時に、訪問客を手

厚くもてなし平和を愛する日本人の国民性を身近に感じた。

現在の日本農業はただ単に高能率を目指すだけでなく、人間に対して安全な農産物を生産することや自然環境を保護することにも力点が置かれている。こうした成果から多くのものを学び取って、自分たちの教訓としたい。

それは多様性のある農業発展、農産物の加工、消費を常に考え、市場の要求に従って生産し、良質のものを必ず第一に念頭に置かねばならないことである。

もう一つ重要なことは農協の存在だ。これによって、日本の農業従事者が早い段階で社会的な地位を確立できる。つまり、農協こそが農業従事者の人力、財力、潜在力を高め、経済の面において、自分の位置付けを獲得できる十分な力となりうるのである。農協は、政府と農業従事者との間の大切な架け橋になり、農業、農村、農業従事者を発展、安定させる役割をもっている。

一方、この農業のプログラムを通して日本の若者との交流、日本人家族の中での生活ができ、日本の文化、歴史を学んだ。また、日本の友人、ホストファミリーの方々が私たちに誠実な感情を示してくれた。日本人から、協調性、責任感の強さ、時間厳守などと素晴らしいものをたくさん学ぶことができた。

私たちが触れる機会を得た大規模・小規模な管理方法、専門技術、生産体験から学んだものをベトナム農村経済、段階的発展過程にある工業の近代化に役立てたい。

## ほんの短い一時

リン・ノック・ヌエン  
(ASEAN混成 環境保全 (自然環境保全) グループ)

人の一生のうち、1カ月はほんの一時である。しかしその時を価値で計ることができるなら、日本でのこの1カ月は、私の今までの人生において、美しい思い出と新しい発見の機会に満ちた、そしてASEANおよび日本の参加青年たちの温かい友情の

中で生活した、長く貴重な一時だった。

たいへんよく計画され成功裏に終わったプログラムは、高度技術、時間厳守の国日本と日本人のすべてを私たちに見せてくれた。私たちは丹頂鶴保護センターや釧路湿原、リサイクルセンターおよび下水処理施設等の見学を通して、多様な生物の環境保全のための日本政府の膨大な努力を知ることができた。講義や見学は深く印象に残った。このプログラムで見聞したことは私の専門分野にとってたいへん有意義だった。

合宿セミナーやホームステイで得た素晴らしい思い出は私の人生で忘れることのできないものである。そこで私は日本語でのコミュニケーション、着物の着方、お茶の点て方やホストファミリーの一員としての生活の仕方などを学んだ。

釧路空港でのASEAN青年と日本人の友人との涙の別れを思う時、国籍は違っても私たちには共通の言語——心の言葉があるのだなと気がついた。

最後に、意義あるプログラムを提供して下さったJICA、日本滞在中に私たちのお世話をしてくださったコーディネーターの方々、関係者の皆様全員に心より厚くお礼申し上げます。

今この時、日本語でいちばんつらい言葉で「さようなら」と申し上げます。

## ■アジア

### ■東ティモール

## 私の立山登山

ガスタオ・フランシス・デ・スーザ  
(ASEAN混成 公共・公益事業(通信)グループ)

2000年9月12日、月曜日の午後4時半に山田村の見学を終え富山厚生年金休暇センターに向かった。海拔3015mの登山に備えて、そこに1泊し、ASEAN混成の仲間、青年招へい担当のコーディネーター、(社)国際交流サービス協会、富山県世界青年友の会の方々と揃って夕食をとった。

翌朝目覚めると、外の天候は雲が厚く垂れ込めて雨が降っていたので、立山登山にふさわしくないと考えた。生まれて初めて温泉を体験し、とても爽快な気分のうちに朝食をすませバスで出発した。

荘厳な立山を立山黒部アルペンルートに沿って登り、時として5分もの長いトンネルを抜け、悪天候ながら立山の美しく素晴らしい風景を眺めることができた。正午に標高1900mのホテルで昼食を食べたが、テーブルに出される料理をすべて食べられるほどの食欲を覚えた。

昼食後、初体験である雪を見、感じ、触れてみた。数枚の写真を撮りながら冬の季節にまぎれたように思った。冬が実際どのようなものか知らないけれど。地獄谷に下りて硫黄のにおいを嗅いだ。これも初めてとても興味を覚えた。

帰路、同じルートで富山市内に戻ったが、この立山登山が最初で最後の旅にならないことを願っている。

## ■アジア

### ■バングラデシュ

#### バングラデシュ教員たちの 素晴らしい見学旅行

ムハマド・フォリド・ウッディン  
(教育(中等理数科教員)グループ)

青年招へい事業により、私たちは2000年6月7日から7月4日まで日本を訪問した。このプログラムを通じて、日本の中等教育の制度および状況を知ることができた。日本での視察はたいへん有意義なものだった。学校教育は立派で、また教育環境も整っていた。教授法、クラスにおける授業方法は系統的かつ素晴らしいものだった。また、私たちは、校長の職務などについても知る機会が与えられた。

ホームステイはプログラムの中でも素晴らしいものの一つだった。ホームステイ体験により、私たちは日本の家庭生活や文化・習慣を知ることができた。

ホストファミリーの温かなもてなしには、感動した。ホストファミリーとの思い出は生涯忘れることはないだろう。日本の自然の美しさ、山々の美しさにも魅了された。

クラスでの授業方法、学校の運営管理、理科の実験、理科の実践教育など、日本で経験したこと、学んだことを、私たちはこれから活用するつもりだ。それにより、わが国バングラデシュによりよい成果が上がることを望んでいる。

## ■アジア

### ■ブータン

#### 電車での旅

クンザン  
(教育(小中高教員)グループ)

それはよく晴れた土曜の朝のこと、私たちは日本人ボランティアの助けを借りて、いろいろな場所を訪れ、観光することができた。私たちは日本橋でショッピングを楽しむことに決め、シャトルバスで茨木駅に向かった。

バスから降りると、ボランティアの方は日本橋に行くには地下鉄に乗らなければならないと教えてくれた。電車での旅が経験できると知って、私たちの心臓は喜びでいっぱいになった。ボランティアの方は切符売り場に案内してくれたが、そこには誰も居らず、自動的に切符を発行する、販売機があるだけだった。

ボランティアの方は券売機にお金を入れるように言った。ボタンを押すと、切符とお釣りが出てくるというのは大きな驚きだった。私たちはさらに、電車を待つ場所に進むことになった。私たちは改札口の切符挿入口に切符を入れ、そこを通ることになった。不幸にも友人の一人が切符を入れ忘れ、改札口は自動的に彼の前で閉じてしまった。皆に笑われて、彼はすごくショックを受け、恥ずかしがっていた。このことは私たち皆にとってよい経験だった。

経験は人間を完成させる。

## ■アジア

### ■インド

## 目的地日本—平和への旅

サンユクタ・シュクラ  
(教育(理数科教員)グループ)

願いを新たにし、思い出を呼び起こしながら年が暮れていく。

これは終わりではなく、終わりが始まったのでもなく、初めが始まったのだ。

そう、12月5日が来て、私たちはインドへ帰って行く。しかし、これで私たちの関係が終わったということではなく、友好の新しい段階が始まり、私たちの心の中で平和への旅が始まったのだ。

「日本」という言葉は、家から遠く離れた私たちに、短い間だったが、くつろいだ気分させてくださったコーディネーターやホストファミリーの方々を思い出させてくれる。美しい紅葉や桜の木の植えてある道を静かに歩いていると、私たちは皆、とてもロマンチックな気分になった。インドと日本の伝統や文化の類似性が両国の絆になった。

私たちは皆すべてのことを忘れてしまってもいいのだが、しかし人類は核兵器とは共存できない、ということは決して忘れてはならない。

私たちはまだこれから何年も生きるだろうが、ただ日本を訪問したという話をするだけでなく、これから先の世代の人々に、世界平和の種を蒔いていかなければならないと思う。

ありがとうございました。

## ■アジア

### ■モルディヴ

## 忘れ難い経験

イリヤス・イブラヒム  
(教育(小中高教員)グループ)

青年招へい事業は実に意味のあるプログラムである。このプログラムを通して、私は、日本の発展した産業のみならず、その教育システム、伝統文化、そして人々の日常生活というような多くのことを経験し、目にすることができた。

日本人々は愛国心が強く、礼儀正しく、時間に正確で、活発、勤勉かつ友好的で親切である。

私はホストファミリーのことで、彼らの優しさを決して忘れないだろう。ホストファミリーは私を本当の家族の一員のように扱ってくれた。私が滞在中に訪れた各所はたいへん美しかった。私はさまざまな場所で日本人参加青年や友人たちとたくさんの写真を撮った。

この青年招へい事業で日本に来ることができ、本当に幸せだと思う。

私が日本で得た経験は帰国後、母国で活用できるだろう。

## ■アジア

## ■ネパール

## 日本のミラクル

ゴバル・プラサド・ラムサル  
(教育(社会科教員)グループ)

見たところ ここの生活、  
なんとすてき、日本という国  
黒い墨で漢字を書けば、日本を見る機会を得た  
ネパールから日本にナマスカル（こんにちは）、  
僕たちは見たよ、  
日本のチャマッカール（ミラクル）  
あちらこちらに電気が光り、  
海の上には橋がかかり  
ガラスで胸を突かれたように、魅了された、日  
本人の話し方  
歩く時には自分で荷を担ごう  
訪れることができた東京  
佐賀の愛情を受けて、スワルガ（天国）にも行か  
ないかも、死んでも（佐賀はスワルガ（天国）のよう）  
昔はあった広島の全焼、  
今はと言えば空に届く高層  
僕たちの愛情、佐賀にいっぱいだよ、世界一の新  
幹線乗ったよ

(訳者注) ネパール語の原文では、韻を踏んだ詩になって  
いる。その雰囲気や少しでも伝えるべく、ネパール語の単語  
を残した。

\*ナマスカル（こんにちは）：namaskar

\*チャマッカール（ミラクル）：chamatkar

\*スワルガ（天国）：swarga（発音が「佐賀」を連想させ  
る）

## ■アジア

## ■パキスタン

## ドリーム・カム・ツルー

アベード・コッドウズ・カズィ  
(医療(医師)グループ)

日本に来ることを夢見てきた。古くから「夢見る  
なかれ、悔やむなかれ」と言われるように夢はなか  
なか叶わないものだが、一生に一度ぐらいは叶うこ  
ともある。そして、まさにここで叶っている。

日本は世界一技術の進んだ国と聞いていたが、ま  
どろんでいようが目覚めていようが、この日本で現  
実さえも夢に、甘く心地よいファンタジーになるな  
どとは思ってもいなかった。花々の漂う香り、技術  
のマジック、それも思いもよらないところで。街角  
に、潮の満ち引きにも、どこにも安らぎと調和があ  
ふれる。キノコのように建物や高層ビルが建ち並ぼ  
うとも、それは決して人々や彼らの表情の純粹さに  
影を落とすこともない。技術の進歩は日本人の心を  
汚すこともない。機械化、自動化された日々の生活  
を終え、家に戻ると箸で食事をし、昼に眠る。

美は日本人のもう一つの名前。それは姿形だけ  
ではなく心からの美。きらびやかな着物、芸術品、習  
字、技巧を凝らした様式、食卓の飾り付け、華道そ  
して盆栽。それらは日本人の内面の美を描き出して  
いる。日本人は人生を楽しんでいるのだろう。だが、  
それよりきっと人生そのものが日本人の中にあるこ  
とを楽しんでいるのだろう。

## ■アジア

### ■スリ・ランカ

#### 一生に一度の思い出

プリーニ・ディアス  
(教育(小中高教員)グループ)

親愛なる日本

1987年からずっと日本を訪れることを夢見てきた。その夢がついになかった。

まさに一生に一度のチャンスだった。生涯決して、決して忘れることはないだろう。スリ・ランカからあなたのところに着いた時、私はドキドキしたが、手に手をとったあなたの温かな歓迎を感じ取り、私の心臓の高鳴りは収まった。

あなたのところで、私は素晴らしく、忘れ難い経験をした。大阪、東京、新潟、静岡、岡山、広島と、あなたの息子さんや娘さんたちのおしゃべりを楽しめたことは本当に幸運だった。

私は滞在中、ひとりぼっちだと思ったことは一度もなかった。だって、私もあなたも同じだから。快活な人々、美しい景色に会うこともできた。また、すべてが時間どおりに進んでいくのを体験したのも素晴らしいことだった。

あなたが与えてくださった貴重な経験は、私の長い人生の旅へとつながってゆくことだろう。出発に際し、あなたの心に永遠に残るように、私の目にきらめく一滴を差し上げよう。

永久に愛しいあなたへ、愛を込めて。

## ■アジア

### ■モンゴル

#### 忘れられない思い出

ソノムジャムツ・バイガルマー  
(地方行政官グループ)

気がつくと、帰国まであと1日になっていた。この1カ月間は何と早く過ぎていったことだろう。初めての日本。成田空港に到着して目にした高いビルや街の喧騒に驚き、慣れることができるのだろうかと思った。この1カ月は私にとって決して忘れることのできない思い出となった。

合宿セミナーでは日本の参加青年たちと政治や経済、社会のさまざまな問題について率直で活発な議論を交わし、お互いをよく理解し合い友人になることができた。

日本青年たちがモンゴル経済の現状に関心を持ち、日本経済とは異なる点を詳しく説明するため努力してくれたことも忘れられない。たとえ別々の国に暮らし、違う言葉を話していても、同じ太陽の下で生きている限り目的や願いは同じなのだということが分かった。安達家にホームステイした2日間で、日本人の普通の暮らし、習慣を直に体験することで日本人の勤勉さや親切さを感じ、尊敬の気持ちが自然にわいてきた。雪山に囲まれた福井県に着いた時、私の故郷、バヤンホンゴルのような懐かしさを覚えた。

小学生たちと一緒に給食を食べ、お遊戯をし、絵を描いているとまるで子供の頃に戻ったようで、すぐに仲良くなれたが、別れの時間は離れがたく、お互い泣いてしまった。私たちのあとをチョコチョコとついてきて、小さな手で握手してくれた子供たちを決して忘れない。子供たちも私たちを忘れないだろう。

広島はとても美しい街だった。原爆資料館を見学していると、思わず心がしめつけられ、戦争とは何なのか、戦争の恐ろしさとはどのようなものであるかを知った。1945年8月6日という日を日本人だけでなく世界のすべての人が決して忘れるべきではない。

金閣寺を見て、東尋坊から日本海を眺め、宮島を

散策している時、私は「また日本に来よう」と自分につぶやいていた。青年招へい事業に参加して私は多くのものを学び取った。

お互いを理解する基本となる言葉（日本語、英語）をもっと勉強してまた素晴らしい国日本に戻ってきたい。この事業を計画した日本政府、JICA、JICE、(財)世界青少年交流協会、(財)福井県国際交流協会の皆様に心からお礼申し上げます。モンゴルの青年たちは、日本とモンゴルの若者たちの交流をもっと深めることを願っている。日本で過ごしたこの1か月間は私の人生で決して忘れられない素晴らしい思い出だった。

## ■アジア

### ■カザフスタン

#### 温かい国・日本

サルタナト・イドリソヴァ  
(中央アジア混成 経済グループ)

日本滞在中は天候もよく過ごしやすかった。温かく、友好的な雰囲気の中、素晴らしいこの国の独自性やほかにはないこの国の魅力を認識することができた。

人々が結束するためには個人的な交流や相互理解に基づく友情と相互信頼が重要である。日本のホストファミリーにおけるホームステイ、日本の青年との交流は忘れがたい印象を残した。

同様に富士山、北海道の大地の美しさ、広島風景、東京の街並みの印象は清冽であった。言葉の障壁に負けず、バレーボールの試合をし、歌を歌い、楽しい交流を持ち、お互いへの理解を深めた。

専門分野に関連のあるプログラムではグループ構成員の専門分野を考慮に入れた準備がなされていた。講義の資料は有益かつ内容が充実していた。特に興味をひいたのは、「日本の経済発展と現状」の講義、野村総研の訪問であった。江戸東京博物館の訪問は日本の歴史を知るうえで一助となった。さらに望むとすれば、プログラム中、日本の経済専門家との交流があれば、業務を組織する際の問題点や特殊性をより深く研究することができるであろうし、また、問題点を協議することができると思う。

ホームステイは全員の心に特に長く残るであろう。そこで私たちはホスピタリティーと私たちへの理解と関心を感じられた。また、日本の国民の文化と伝統を知ることができた。私たちの国にもホスピタリティーにおいては強い伝統や習慣があるため、常に大きく私たちを包んでくれた優しさと配慮を感じることができた。

冬季ではあるが心温かく日本への愛と敬意を抱いて帰国することとなった。私たちは皆さんが与えてくれた大きな発見に心から感謝を表明する。それは日本という国の発見であった。

敬意を込めて、中央アジアグループ一同より。

## ■ アジア

## ■ グルジア

### 親愛なる皆様

レバン・チョルゴラシヴィリ  
(コーカサス混成 経済グループ)

まず、コーカサスが初めて参加する青年招へい事業を成功させるために、プログラムの主催、運営に携わって下さった皆様、そして参加し、支えて下さった皆様に、深く感謝したい。

日本語学習は印象的だった。日本語が好きになり、ほとんど全員が日本語で話すようになった。今後も日本語を学んでいきたいと思う。ただ、このような興味深い授業の時間が少なかったことが、とても残念だった。

最も楽しく忘れたい時間は、修善寺ユースホテルでの合宿セミナーだった。温泉の体験をするなかで、各国の青年たちが親しくなれた。日本の青年たちと知り合い、仲良くなる最良の方法は、このように寝食を共にすることであると思う。わずか3日間の合宿セミナーであったが、レクリエーションや討論など、時間を共有することで、お互いのことがよく分かり、親睦を深めた。また、お互いの文化、伝統、そして、日本の青年たちが何に興味を持ち、どのように暮らしているのかについても、多くのことを知ることができた。

JR東日本、大井車両整備工場の見学も、たいへん有意義なものであった。日本の電車の運転時刻が正確であることに驚き、そのコンピューター制御システムについても感嘆した。今後、JRのような大企業への訪問をさらに増やしていただきたいと思った。

ホームステイプログラムで、日本家庭で過ごした素晴らしい時間も忘れることはできない。実際に、私たちは自分が日本家庭で家族の一員になったように感じていた。日本国民は客のもてなしがとても上手な国民であることは知っていたが、今回のホームステイで、はっきりと確認することができた。日本で、私は、両親、姉妹、親戚を持つことができた。別れるのが辛かった。今度は私たちの家族として、日本の家族を迎え入れたいと思う。

原爆投下後の廃墟から、広島がどのようにして現在の新しい街として再生できたのか、なかなか信じてことができなかった。原爆資料館でフィルムや展示物を見た後、世界にとって平和がどれほど大切であるかを痛感した。上映されたフィルムは、私たちに深いショックを与え、涙を抑えることができなかった。原爆資料館が永久貸与して下さったフィルムと情報を、私たちの国のみならず、世界中の国々で上映し、語り伝えていこう尽力していきたいと思う。

私たちからのお願いだが、次に日本を訪れるコーカサス青年たちのために、原爆犠牲者の墓碑銘に献花する時間を設けてはいただけないだろうか。

原爆の悲惨さを知った後で、消えない憂鬱を抱えながら、みんなで広島の街を散策した。現在の広島はとても近代的だった。悲しい思いと一緒に、現在の広島の様子が、私たちには好ましく思えた。

私たちの心には、日本の皆様との温かい交流と楽しい思い出だけが残っている。日本の豊かな文化や日本人の勤勉さ、伝統に対する敬意と現代的な生活は、一つに融合し、日本の国の発展に大きく寄与している。日本が開発途上国にして下さっているような援助を、近い将来に私たちの国も行えたらいいと思う。

「さよなら」ではなく、ただ「じゃ、また」とだけ言っておきたい。素晴らしい日々と瞬間をありがとうございました。日本から、グルジア、およびコーカサス各国にいらっしゃってくださることを楽しみにしている。

## ■太平洋諸国・地域

### ■パプア・ニューギニア

#### 日本は世界を結ぶ模範生

アベリス・ベンソン  
(教育(初等教育)グループ)

私は日本に来て、大阪に滞在し始めてからとても多くの国々がJICAのプログラムに加わっていることを知って驚いた。当初この事業の実施にはとても経費がかかると思った。しかしあとになって、世界の国々の間で広がるべきものは相互理解であり、この事業は生きてると実感したのだ。

日本語を話せない青年としては、自由に自分自身を表現したいにもかかわらず、素晴らしい日本の友人との交流がとても難しいことが分かった。とはいえ「にほんご21」を常に持ち歩いていたので困ることはなく、店での買い物、意見交換、学校訪問と多くの出会いに片言の日本語で対応する面白さも知った。

私は学問の根底にある“知る者から知らざる者へ”という概念が教育制度において真実であることを実感した。その考えに基づいて小学校から高等教育のレベルまでこの原理を現場に反映させているのだ。知識の習得は学ぶ者が親しんでいる言語の下で初めてよい把握がなされることも真実である。この考えから私はなぜパプア・ニューギニアの多くの人々が無学なのか、今理解した。

また、公平な伝達手段として英語を取り入れるべきであるとも考えている。

文化的に多様な国から来日した青年として、日本人が多くの伝統と習慣、価値観、そして信念を守っていることがとても興味深く印象に残った。これらは日本の国の歴史における誇りだろう。私は多くを学び、自分の国に自信を持った。パプア・ニューギニアの若い人々に私の得た知識を伝えることで私の貢献も誇るべきものとなるだろう。

さらに人々の寛大さ、平和な環境と温かい歓迎の伝統は、自国に持ち帰る多くの体験となった。この繁栄と伝統の模範こそ、私の国が最も必要とするものと確信したのだ。この模範生の国をもっとよく知り、日本語を完全にするためより長い滞在を切望す

る一方、世界を結ぶ平和の模範生としての日本を自国の多くの人々に語るために日本を離れなくてはならない。

#### 日本—予期せぬことを期待する

G・バボナ  
(地域開発(経済)グループ)

私たちにとって太平洋の静けさを離れ、日本の首都圏に入ることは夢のように思われた。てんてこ舞いした1カ月の日本での経験と日本人の友情は忘れ難い。

日本人との交流の中で、日本とパプア・ニューギニアとの社会的・経済的・政治的な類似点を見いだした。しかし、基盤開発での技術格差を目の当たりにして、パプア・ニューギニアと日本との地域開発の概念の違いを知った。

日本国民は基本的なサービスを十分に受けているが、パプア・ニューギニアはまだこれらの目標に到達していない。両国間の友好関係を深めることは、パプア・ニューギニアの地域における社会経済発展の技術移転にとって不可欠である。同様に、技術開発による多くの公害も目撃した。これらの経験により、生態系へのマイナスの影響を予防するため、住民に有益な健全なる政策決定することの重要性を認識した。

それゆえ、教育を通じての人的資源の開発や機能的な社会機構の維持は、持続可能な開発にとって非常に重要である。

このプログラムで、日本人のいろいろな面を知ることができた。また、美しい富士山、伝統的な浅草、風光明媚な宮島の見学では、日本の豊かな遺産への見聞を広めることができた。

さらにまた、広島での戦争の悲惨な結果を知り、平和と調和の推進における日本の役割をより理解した。

予期せぬことを期待する国を訪問した経験を、生涯忘れない。

## ■太平洋諸国・地域

### ■フィジー、サモア

## 素晴らしい日本—阿波村ありがとう

シャリーン・ラタ・カーン  
ヴィノッド・ラル  
キリカメサ・エリ  
(太平洋混成 社会開発(教育)グループ)

素晴らしい日本  
青年招へい事業  
たった1カ月の滞在でも  
一生忘れられない思い出  
素晴らしい国、日本

未知の国への旅  
不安ばかりが募る  
しかし今では故郷と呼べる  
心優しい人々の国  
永遠の友達、日本

年齢、人種、皮膚の色にかかわらず  
大阪国際センターは私たちの家  
善意にあふれた顔とおいしい食事  
ホームシックになるはずもない

近代化しても西洋化はせず  
日本は伝統文化の国  
神社仏閣、城と庭園  
箸と刺し身、着物と畳

澄んだ山の冷気の中で  
人々の優しい心に包まれ  
本当の日本家庭に滞在した  
阿波村はかけがえのない地

平和記念公園で  
命の尊さを心に刻む  
手を携えて平和を願おう  
平和は日本の永遠の希求

心から感謝を込めて

JICA、ありがとう  
素晴らしい日本、さよなら日本

阿波村、ありがとう  
親切で愛情あふれる阿波村の人々  
私たちの感謝の気持ちを  
どうてい言葉で表すことはできない

温かいおもてなしと誠意  
敬意と優しい庇護  
親切と友情と愛情  
美しい土地で過ごした日々  
幸福と平和に恵まれた

阿波村の人々の親切に  
私たちができる報恩は  
ただ感謝することのみ  
ありがとう  
ありがとう  
ありがとう

皆様に神の恵みのあらんことを  
皆様の夢が成就されんことを

## ■太平洋諸国・地域

### ■ミクロネシア

#### 日本での経験

グロリア・メゲッグ  
(太平洋混成 経済開発グループ)

日本についての最初の印象は、進んだ技術の専門家たちがいる国、というものだった。そして、この1カ月の日本滞在は、これが本当であることを証明してくれた。1カ月の間、私たちは日本のさまざまな文化、経済活動、技術、太平洋諸国との友情を経験した。

これらの経験によって、日本と太平洋諸国の青年は、お互いに意見を交換し合うことができた。そして有益で興味深い考え方も学ぶことができた。

いろいろな経験をしたなかでも特筆すべきは、ホームステイを体験したことである。ホームステイで、私たちは日本の家族のあり方や生活様式などを学ぶことができた。ホストファミリーの皆さんは、私たちを家族の一員として家庭に招いてくださった。

私たち経済開発グループは、今回来日の機会をくださったJICAに、親切にしてくださったコーディネーターの方々に、心からお礼を申し上げます。

私たちは帰国後、この素晴らしいプログラムで学んだことを、母国の人々と分かち合っていきたいと思う。

## ■太平洋諸国・地域

### ■ニウエ

#### 夢がかなう

テリアンヌ・ヴァイン・モコイア  
(太平洋混成 環境保全グループ)

JICA、(社)青年海外協力協会、JICE、および日本の皆様に対して、私たちが青年招へい事業で日本に招待していただき、心から感謝している。これは一生に一度の貴重な体験であり、近代的技術をもつ日本に来ることができ、私にとっては、夢が現実になった。

まさに目からうろこが落ちるような感じで、私は日本の文化、生活様式を、4週間を通じて感激しながら経験した。

ホストファミリーの加藤純子さんの家族からとても温かく受け入れられ、完璧なほど私をもてなしてくださり、本当にゆったりとホームステイを楽しみにぎやかに過ごした。心から「ありがとうございました」と申し上げたい。私としてはホームステイが2泊3日しかないのが残念だった。

日本に滞在した4週間で、私は、時間どおりに行動すること、技術を受け入れること、環境に配慮するような努力をして作られた施設の仕組みや環境をよくする試みなどについて、学ぶことができた。

私にとっていちばん難しかったのは、箸を使うことで、指で食べるのとは大違いだった。

日本での毎日の経験が、私には驚きの連続で、私にはどんなことでも楽しく感じられた。

美しく緑の多い環境について次代を担うリーダーである若い人たちと話し合うプログラムの構成にも感謝している。長島さん、島田さん、喜島さん、私たちに辛抱強く付き合ってくださいありがとうございます。

日本に対する深い敬愛とよい思い出を胸に故国に帰る。この夢のような経験のあとで、私は帰国して現実に戻る。

さよなら、ありがとうございます、日本。

心から幸運を願って。

## ■ アフリカ

### ■ カーナ

## 美の国—日本

エディス・ナアア・デレイ・クアイエ  
(アフリカ英語圏 女性教員グループ)

技術と経済がたいへん発展したアジアの国、というのが私の中にあった日本のイメージだった。しかし、来日してみて、それとは違う日本を教えられた。時間に対する意識を高く持ち、意志が強固、勤勉、実直で、心優しく、人種差別をせず、文化、伝統を重んじる——そういった教育を、日本人は子供の頃から、家庭や学校で教わるのである。日本の教育制度の中にも、その要素が認められる。

彼らは、実に、勇敢で勤勉である。そして、仕事に堅実に励み、働くことに喜びを見いだしている。岩山はあまりなく、肥沃な農地が広がり、日本人は実によく働く。

どこまでも美しい風景と、伝統や文化を守ろうとする精神を持った美しいこの国そのものが、日本である。

日本は、美の国、温かく、親切で愛すべき人々の国だ。

## ■ アフリカ

### ■ マラウイ

## 知識の交換

ボニファス・バンダ  
(アフリカ英語圏 保健衛生グループ)

私にとっては初めての日本訪問だった。来日前、日本についての明確なビジョンはなかった。幸運にも平成12年度青年招へい事業に参加でき、日本社会に接する機会を得た。プログラムはよく準備されており、日本の各都市を飛行機、バス、電車、船を利用して訪問したが、大変素晴らしかった。

ホームステイ、合宿セミナー、講義、史跡見学等を通して、文化や医療サービスについて知識を交換し合った。史跡見学では日本人が文化を大切に、仕事にひたむきであることを知った。

そのほかにも医療分野の高度技術について知識交換する機会があった。例えば住民の早期肺がん検診のための移動CT車の利用等についてである。

なかでも忘れられないのは、日本人参加青年との意見交換を通して、さまざまな社会および医療分野の問題に対して、日本がどのように取り組んでいるかを知ることができたことである。

## ■アフリカ

## ■マリ

## 日出づる国において

ファトゥマタ・サベ  
(アフリカ仏語圏 女性教員グループ)

2000年11月23日の晴れた日に、私の運命は平和を愛する人々に会うために太平洋へ向かって動き出した。平和を愛するのみでなく、勇気があり、勤勉で規律正しく、人を快く迎える国民、私は日本人のことを日出づる国の人々と呼んだ。

温かい歓待ともてなしの国、そしてその高度なテクノロジーにより、異国の人間をさらにもう一人魅惑した国。

日本滞在中、最も印象的だったのは家だった。家庭とは社会における最も基本的な単位であり、また社会を映す鏡であると思う。私はホームステイを不安な気持ちで待っていたが、和歌山の庵尾さんの家族は、全員が私の面倒を見てくださり、娘さんの佳代さんともたやすく部屋を共有できてとても驚いた。お母様は心のこもったお料理で私を迎えてくださり、家族全員と一緒に食事をいただいた。

佳代さんとの別れのつらさは忘れられない。彼女は泣きながら言った。

「ファトゥさん、楽しんでいただけたらよかったです。わが家に来ていただいていたいへんうれしかったです。手紙を書きます。ぜひまたお会いしたいです。よいご旅行を。父も母も兄も私も皆あなたのごことが大好きです」

この時のことはいつまでも忘れられない。

日本の家庭に滞在して、どのくらい日本人が世界中の人々との友情のために力を注いでいるかよく分かった。このことは、広島を訪れることで、より一層確信が持てた。

この滞在によりアフリカと日本の協力が実り多く末長いものであって欲しいと強く希望するようになった。

## ■アフリカ

## ■モロッコ

## 秋の花

マリカ・ティブヒリ  
(アフリカ仏語圏 保健衛生グループ)

日本のことですか？

初めてこの地に足を踏み入れた時には、いくつもの言葉が脳裏をよぎり、いろいろな思いが入り乱れた。未知の世界に属するこの国に対して、警戒する気持ちもあった。でも、日々が過ぎていくうちに、初めは閉ざされているように見えたこの国も、一枚また一枚と花びらが開くように、ゆっくりとその姿を見せ始めた。そう、温かさ、優しさ、忍耐強さなどを。朝、目覚めると、あちらでもこちらでも微笑みが待ち受けていて、私はただ、微笑みを返すのみだった。

それにしても、大阪の水族館で過ごした数時間は、忘れ得ぬ経験となった。生き物たちは、そこで自然のままの環境を与えられているのだ。魚たちと視線が交わると、強い感動が私を捉えた。一つの目線がもう一つの目線に答える。瞳と動きだけを媒介とするコミュニケーション。私は、この温かい触れ合いに、深い喜びを覚えた。

大都会を後にすると、さまざまな風景が調和をもって視界に現れてくる。すべての石、あらゆる花々が、万物の統合への祈りを唱えているのだ。公園でも丘の上でも、一步踏み出すごとに私は、この威厳に満ちた静謐な宇宙にさらに深く身を沈めることができるのだった。そして、太陽や炎を思わせる色彩に染められた木々の葉は、ほんのわずかのそよぎにも感応し、地に落ち土に還る前に、私の首をそっとかすって行くのだ。それは、ありきたりの言葉をいくつ重ねても表現しきれない、素晴らしさであり、深い喜びだった。

## ■ アフリカ

### ■ セネガル

#### 日本発見

アブドウライエ・ムンタガ・サル  
(アフリカ仏語圏 理数科教員グループ)

JICAの青年招へい事業で、私たちは、宿泊、食事、交通などの条件にとっても恵まれた。プログラムはすべて予定どおりに実行された。

さまざまな分野の見学と数々の講義を通じて、日本の歴史、文化、技術に及ぶ広い知識を広めることができた。

資源に乏しい日本は、それを補うために資源としての人間の育成に力を注いだ。

つまり非常に優れた教育システム、特に規則、しつけ、正確さ、そして仕事への熱意に重点をおいたシステムである。

私たちの滞在中、最も忘れ難いことの一つとして、津山でのホームステイがある。

本当に素晴らしい体験であった。日本人の心温まる歓待、礼儀正しさ、そして寛大さに触れることができた。なんと素晴らしい人々か。このような人々に接することで、私たちは世界を一つにすることができると確信した。つまり民族が違っていても懇親と友情が優先し、国際連帯感が育ってゆき、平和がいつまでも続く。

最後に、次回プログラムを考え、プログラムの時期、内容面で改善したほうがよいと思う点を挙げる。

- 1) プログラム実施の時期を8月と9月にしてほしい(アフリカの学校はこの時期夏休みで、日本のこの時期の気候のほうが私たちにとって楽である)。
- 2) 全般にわたって、もう少し私たちの専門分野に絞ってほしい。
- 3) 渡される資料はすべてフランス語にしてほしい。

## ■ アフリカ

### ■ サンヒア

#### 日本人の挑戦

ハッピー・ムルウェ  
フェリックス・バンダ  
(アフリカ英語圏 理数科教員グループ)

日本へ青年招へい事業で来ることは、日本人が世界的に認められている先端技術の躍進に参加青年に見てもらふ絶好の機会となる。私たちにとってもこの旅と経験は、生涯心に残る大挑戦となった。壮大な建築群、最大の土地利用と詳細の資源活用を見るにつけ日本人は大設計家であることが明らかになってきた。

かつて廃墟と化した広島の見事な復興と際だった美しさは人々の勤勉さの結晶なのだ指摘される。

首都・東京の入り組んだ通りを歩き、時間厳守の“新幹線”と同じ速さで動く大衆は、まるで有事の兵士を眺めているようである。蜂のごとく忠実に義務を果たす様子を見て、なぜ日本人が成功したのかを納得した。しかしさらに驚いたことは、日本国民の目標を成し遂げようとする意識である。

日本人の相手に対する圧倒的な歓待、尊敬、そして偽りのない思いやり。私たちは日本の人たちと自由に集うたびに遠く祖国を離れていながらとても気楽な思いを覚えるのである。

確かにこの青年招へい事業は帰国時に、企画、勤勉、実施、思いやり、弾力性、確固たる決意の必要性を私たちに教え、新たな活力を与える。私たちは永遠に平和の大使となるであろう。

日本人万歳！

## ■中南米

### ■チリ

#### 中南米の視点から見た日本の教育

イボンヌ・ルイス  
バイロン・バジェ  
フスタ・ガルベス  
(中南米混成 小中学校教員グループ)

文化交流は、その国が成した発展について評価することを可能にする。今回、日本とラテンアメリカの教員の経験を共有することで、私たちは、日本とは多少異なる立場の視点から日本の教育体制について見る事ができた。

日本の教育には、非常に行き届いた配慮がなされている。理由として以下のことが挙げられる。

第1に、教育は予算的に非常に重視され、すべての学校に適切な施設設備が備わっていること。特殊教育においてそれは顕著である。

第2に、都道府県、市町村、そして地域ごとに、教育の運営体制と校区があることによって、教師、父兄、生徒を巻き込みつつも、体制が教育の責任を担うことが可能であること。

第3に、理科、技術、文化、習慣、そして伝統(音楽、文学、料理、武道、技術科の教授を通じて)を重視した、多様なカリキュラムの存在がある。

こうした体制が、この国の科学、技術、経済の飛躍的發展を可能としたのである。しかしながら、次の考察はおそらく重要であろう。すなわち、教員の頻繁な異動、特に特殊学校での異動は、現場のニーズと教師の専門や経験に対応して実施するべきである。さらに、社会参加やグループとしての経験は、子供や青少年の総合的成長にとって必要である。情操教育の開発も必要であろう。それは、生徒の意欲のなさや無関心、攻撃的といった問題を解決するとともに、祖国、自治体、家族そして自分自身を愛して価値を認め、正義と連帯感、安心感、そして平和ある社会のために、私たちは貢献が可能であり、かつ貢献すべき存在であると認識する基本となりうる。

## ■中南米

### ■ジャマイカ

#### 温かかった日本の冬

マリオン・マルゲリエッテ・ウィザード  
(中南米混成 社会福祉グループ)

2001年1月18日木曜日、私は日本に着いた。疲れはしたが、飛行機の長旅が終わったことに感謝した。私たちのグループは2人の感じの良い日本女性に温かく迎えられた。

金曜日に目が覚めたとき、私はこれからの滞在がどうなるのだろうと考えた。

しかし、すぐに私の人生で最高に楽しいものになるに違いないと強く思った。

なぜか? それはカリブ海諸国の仲間がいたからである。仲間たちの温かさはあたかも部屋に入った時のようであった。ラテンアメリカからは3人が参加していたが、すぐにカリブ・ファミリーの一員となった。

コーディネーターの役割は特筆すべきものがあつた。彼女たちは私たちのプログラムがうまくいくように最大限の努力をしてくれた。後に私はそういった仕事ぶりは、日本人全員に共通した態度であることを知った。

ホームステイが近づいてくると、私は怖くなってきた。しかし、ホストファミリー宅に着くやいなや、私の不安は安堵に変わった。ホストファミリーとの会話やふれあいは、生涯忘れられないものである。ホストファミリーの親切と能率のよい生活には本当に驚いた。私も見習ってカリビアン・ジャパニーズとして国に帰るつもりだ。ここで学んだことは、社会福祉制度と友情の絆の大切さであった。

JICA、(社)日本国際生活体験協会(EIL)、そして(財)沖縄県国際交流人材育成財団(OIHF)の皆さん、ポップ・マーリーの歌である「One Love, One Heart」を聴いてください。これこそ、私たちが実現させたことである。

私の日本滞在を語る言葉、それは、「Unforgettable」(忘れられない)としか、言いようがない。

## ■ サウディ・アラビア

## ■ サウディ・アラビア

### 日本への招待

---

サアド・アリー・アル・ガルニィ  
(教育(小中高教員)グループ)

今回の訪問を通じ、日本、特に教育に関する知識と認識を深め広げるために努力して下さった皆様方に心より感謝を申し上げます。

私たちは皆、日本のことを詳しく知ることができました。そして日本人がとても友好的であることも知った。日本人たちは私たちをよくもてなして下さいました。また日本の古くからの文明と新しい文明も間近に見聞き知ることができた。さらに日本がテクノロジーの点でいかに進んでいるかも見聞した。

私たちは多くの美しい県や町を訪れた。そして日本人たちの美しい心と日本の美しい自然に触れた。

私たちが日本や日本の教育について学び経験したことはぜひ母国に持ち帰りたいと思う。そして私たちの文化・習慣に適したものを活用していきたい。

最後に日本を離れなければならないのは残念だが、今回日本とサウディ・アラビアの間で培われたこの友情と絆が、教育に限らずあらゆる分野で続いていきますよう、アッラーのご加護のあらんことを。「さよなら」とは言わず、アッラーのご意志により、別の機会に「またお会いしましょう」と申し上げます。

### 3. 合宿セミナー参加日本青年の声

#### Thanks, Our Friend !

澤田 憲一  
(会社員)

「僕のポリシーは人を笑わせる(楽しませる)こと。1日10人くらいの人と会うだろう。だから1年で3650人の人々を笑わせるんだ」というデブの言葉にフィリピン人の明るい気質の原点を見た。自分も楽しみ、相手も楽しませる。彼らの一挙手一投足に、私をはじめ、日本人全員が大いに笑い、幸福感にひたった。

また議論の時には、自身の考えを明確にかつ論理的に話し、周りの意見は真摯に受け止める姿には、私たちも学ばなければならないと感じた。

今回の合宿セミナーは、私にとって普段味わえない刺激となり、この感動を一人でも多くの仲間に伝えたいと思っている。このような国際交流に多くの日本人が積極的に参加していけば日本人もいい意味で変質するであろう。

#### あれはぬいぐるみでしょう？

酒井 智美  
(会社員)

「あれはぬいぐるみでしょう？」

と、黒いスタンダード・プードルを指さし、パプア・ニューギニアの青年が聞いた。私たちは、ホテルで開催されていたドッグショーを、休憩時間に見

学していたのだ。エントリー前にトリミングされていたその犬は、微動だにしない。私が「本物だよ」と言うと、目をグリグリさせて驚いていた。

プードルという種類、じっとしている犬、芸術的なカット、すべて初めて見たものだったらしい。

好奇心いっぱいの彼らは、覚えたての日本語で、「すみません、……」とブリーダーに話しかけ、あっという間に記念撮影の許可をもらっていた。私は普通に思っていることに、真剣にびっくりしている彼らの反応が、とても新鮮だった。

ディスカッションのあと、「100年後のパプア・ニューギニアを見ているようだ」と、マークさんが日本の感想を言った。高層ビル、鉄道、コンピューターなどの技術革新を目の当たりにして、心底びっくりしたのだろう。

でもそこに住む人間は、パプア・ニューギニアに住む人間と変わらない。例えば、結婚の話である。ある青年が「パプア・ニューギニアの私の村では、A家の長男とB家の長女が結婚したら、A家の次男とB家の次女が結婚したりするんだよ」と教えてくれた。「日本も昔はそんなことがあった。うちの祖父母がそうだったから」と、私は共通点を見つけて笑った。

彼らの村には電気がないこと、家は大工に頼むのではなく家族で手作りすることなど、のどかな暮らしぶりを聞いた。私の生活様式とは違うようだけど、気持ちは豊かに暮らしているんだな、と思った。

## 音楽のなせる技

小林 聡子  
(大学院生)

今回の合宿セミナーの使用言語は、ベトナム語と日本語。会話や討論は、通訳の方を通して進められた。ゆえに、通訳のいないところでは、互いに顔を見合わせて困ってしまうこともしばしばあった。

きっかけは、パーティーの2次会。音楽をかけた薄暗い部屋はちょっとしたクラブのようになり、誰彼かまわず踊り始めた。音楽はなんでもよかった。時には、モーニング娘。の歌だったり、東京音頭だったりした。そうして、言葉の壁は取り払われ、誰もがただ楽しくて、踊り、歌い、笑っていた。音楽には壁を取り払う力がある。

そこには、国の違いなどのこだわりはなく、一人一人が魅力的で、この合宿セミナーでの出会いに心から感謝したひとときであった。

## 金では買えない気持ち

岩瀬 進哉  
(大学生)

私は東京農業大学の2年生で、2カ月後に、インドネシアに行く予定がある。それで、この合宿セミナーに参加することを決めたのだ。

インドネシア語を実際に使ったディスカッションは、言葉を覚える絶好の機会だった。日本では、全く使うことのない言葉だからだ。2泊3日の短い期間なので、そんなにたくさんの言葉は覚えられないが、私には金では買うことができない、たくさんのものがあることを知った。

そのなかでいちばんのものは、交流を通じてできた友達だろう。言葉や文化の違いはあるが、そんなことを気にせず話していると、だんだん心の壁が溶けていく。私はその一瞬一瞬を誰よりもかみしめ、楽しんだと思う。

2カ月後の実習が夢の第一歩になるよう願っている。

## カンボディア青年の印象

金子 泰規  
(会社員)

初めて等身大で接したカンボディアの青年たちは、快活で真摯だった。

音楽に合わせて体を揺らす時も、初めての大浴場にトライした時も、スポーツ交流でリレーやバレーボールをした時も、彼らはいつでも何にでも心から楽しんでいるように見えた。私たちはすっかり彼らのペースに引き込まれてしまっていた。私はとえば、こんなに心と体を動かしたのは久しぶりだった。しかしその裏には、厳しかった現実を超えてきた強さが感じ取れた。ディスカッションを通して交わす意見のなかに、彼らの自国に対する愛情と責任感があふれていた。

「カンボディアは人材が不足している」と、彼らの一人が話していたのが印象に残っている。

## テリマカシ、マレーシアの青年よ!

宮津 毅  
(公務員)

海外旅行に一度も行ったことのない私にとって、マレーシアの青年たちと2泊3日、寝食をともにするという事は、正直言って心臓ドキドキ以外のなものでもなかった。

しかし、新宿の京王プラザホテルで初めて顔を合わせた時から、彼らのフレンドリーな態度に感心させられるとともに、ほかの国の人々(民族)と上手に付き合うすべを知らない典型的日本人である自分に少し情けなさを覚えたのもまた事実であった。

さて、合宿セミナーでは、スポーツ・文化交流を通じてお互いの理解を深めることができたが、なかでもいちばんよかったのは、グループディスカッションだと思っている。

最も印象に残ったマレーシア青年の考え方に、「心の豊かさと物質の豊かさを両立させながら自分の国を発展させていきたい」というものと、「家庭(家族)は国の始まりである」というものがあった。心のよりどころのない(あるいは、なくしてしまった)日本人にとってみれば、なんとうらやましい考え方なのだろう。自分の生活を振り返ってみた時、反省させられることしきりだ。これからは、家族と過ごす時間をもっと大切にしようと思った。

自分の意見を積極的に表現し、前向きに行動する多くの日本人青年にも出会えた。

日常生活では得ることのできない驚きと喜びの連続だった2泊3日の機会をつくり、サポートしてくださった方々に深く感謝するとともに、今回一緒に過ごしたマレーシアと日本の青年に、心から、どうもありがとう。

## パキスタンの文化・医療にふれて

若林 秀隆  
(医師)

合宿セミナーに参加して、パキスタンに対する私の先入観が随分間違っていたことに気づいた。パキスタン=イスラムの国。同じ宗教だから個人の考え方も似ている、と思っていた。

一部の参加者から、部屋の風呂を初対面の日本人とは共用できない、というクレームが出た。そのため大浴場に行こうとしたが、一方で、同室に寝泊まりするのだから、大浴場に行かず部屋の風呂を使え、という参加者もいた。

その時は、気が動転したが、考えてみれば同じ国、同じ宗教でも、価値観は一人一人違うのは当然である。

グループ討論では、医師と看護婦で上下関係はない、という看護婦の言葉や、医師と看護婦の職場結婚が多いということに、驚いたりした。

私の先入観をこわしてくれた彼らと、合宿セミナーに感謝している。次はパキスタンで再会し、より彼らを知りたい。

## 世界は一つ

千葉 隆芳  
(会社員)

ヴェトナムの青年が「日本の人たちと『We are the world』を歌ったよ」と興奮しながら、部屋に来て私に言った。合宿セミナーで最も印象に残った言葉であった。「私たちは一つ」。その言葉が今でも頭に残っている。

言語の違い、気候の違い、文化の違いなど、違いをあげるときりがない。実際、夜の交流会で各国の民族衣装をまとった踊りを見て、各国の文化の違いを感じていた。そして、地図を広げて、「遠いところから来たんだな」と思った。まるで教科書片手に社会科の授業を受けているかのようなようだった。

しかし、ヴェトナムの青年の言葉が私の心の壁を取り除き、ASEAN諸国を非常に近く感じさせた。さまざまな違いは、世界の広さを証明するものだけではなく、相互理解、一致のカギであると、合宿セミナーを通して考えることができた。

## 日本国内で身近に感じたアジア

久慈 聡  
(公務員)

言葉や文化等、それぞれの背景を持つ人々が集うASEAN混成グループの合宿セミナーで、私もアジア人の一人として、さまざまなことを見聞きすることができた。

現在、日本で生活している私たちにとって、外国人と交流を持つことは、それほど困難なことではない。

しかし、この国と慣れ親しんだ人々と違い、合宿に参加する青年たちの日本に対する反応は本当に新鮮なもので、私も彼らと一緒に日本文化を味わうよい機会を得た。

また、ディスカッションを通して、彼らの日本に対する政策、外交、技術への関心と期待が感じられ

た。私も彼らとコミュニケーションする力と、彼らに伝えうる自分の専門能力を高めていきたい、と思った。

---

## ミャンマー、その素顔に触れてみて

---

眞鍋 澄子  
(教員)

ミャンマー教育グループとの話し合いで、日本とミャンマーの基本的教育姿勢において、確固たる差異を感じ取った。そして、私たちは、懸命に人材づくりにかけている彼らの情熱に力強い機動力を見いだした。

仏教の教えに導かれ、教育内容も大きく変化し、各学校設置数も増加し、ミャンマーの先生方はさらに多くを求めて、日本からよい点を学ぼうとしていた。

私たちが彼らからの意見や提案に耳を傾け、現在問題とされている点を注視して取り組んでいくことが必要であると思える。相互の話し合いは、秋の季節にふさわしく、多くの実りを授けてくれた。

ミャンマーも日本も“踊り”を披露し、文化交流では大いに楽しみ、笑いがこぼれた。

---

## 合宿セミナーに参加して

---

大場 秀美  
(教員)

アフリカ仏語圏の女性教員グループとの合宿セミナーは、冬の軽井沢で行われた。

「国を出る時は、34℃あった」と言っていたアフリカの人たちは、朝は氷点下になる寒さにびっくりしていたようだ。

ディスカッションでは、それぞれの国の教育の様子が話題になった。物質的には恵まれていない国々だが、家族の絆や近所との関係が大切にされて、子供たちの目が生き生きと輝いていると聞いた。人と人との心のつながりが、今の日本の子供たちに必要なことの一つだと強く感じた。

子供の遊びや歌を紹介し合った。ルワンダの方から教えてもらった子守歌の美しさに心打たれ、忘れないように、何度も何度も心の中で歌っている。

---

## モンゴルの青年との合宿セミナー

---

茂木 一樹  
(公務員)

合宿セミナーから帰ってきた私は、今まで知らなかったことを経験した時に起きる、ちょっとした興奮状態にある。まるで初めての海外旅行から日本に戻った時のようだ。これは、モンゴルの青年と時間を共有し、知識として、また経験として、モンゴルに触れたためだと思う。

考えてみれば、今回合宿セミナーに参加するまでは、モンゴルについては、「チンギス・ハーンの遊牧民の国家で、今は相撲で活躍している」程度の知識しか持っていなかった。

それが今では、地理・気候に始まり、歴史、文化、国民性まで言及できるようになった。そして「短かったけれどもモンゴルの青年と楽しい時間を過ごしたよ」と話すことができる。

これは大きな収穫である。まるで合宿セミナー2日目のイチゴ狩りで食べたイチゴのようにおいしい経験だったといっても過言ではない。これも、参加した両国の青年、そしてスタッフの皆様方のおかげである。心から感謝申し上げたい。

## 4. ホストファミリーの思い出

### 人類みな兄弟

飯塚 友紀子  
(島根県)

私の家にホームステイに来たソロモン諸島の青年はとてもおとなしい女性で、異国の地に来た緊張と不安でいっぱいの表情を浮かべていた。何をしてあげれば喜んでくれるだろうか、といろいろ考えたのだが、そんな問題は一瞬のうちに解決された。

たまたま紹介した私の甥と、彼女の息子がちょうど同じくらいの年齢で、彼女は故郷に残してきた子供のことが気がかりでホームシックになっていたのだと話してくれた。

彼女は甥をととても可愛がってくれた。私はこの時、ありきたりだが、“人類みな兄弟”という言葉を実感したのだった。

特別なもてなしではなく、人間としてのつながりが大切なのだ。

遠くに暮らすもう一人の甥にいつか会える日を楽しみにしている。

### ヴェトナムから来たヴァンさん

丹下 紀子  
(岐阜県)

私の家庭は、昨年もASEAN混成グループの青年を受け入れた。今年も同様に、ヴェトナムの青年だったので、家族はとても楽しみにしていた。

ヴァンさんの「こんにちはー」という、独特のイントネーションの日本語は、私にとっても親近感をもたせてくれた。彼女と一緒にいった犬山城や明治村では、私も改めて日本の歴史や文化を学び、彼女にうまく伝える努力をした。

しかし、いちばん彼女が喜んでトライしたのは、郡上八幡の温泉だった。それはまさに、“裸のおつき合い”を実践できたのだった。

普段、温泉に入る機会のない彼女にとって、日本人と触れ合う場として格好のところだった。「I like it! Wonderful!」との彼女の発言に、家族ともどもうれしかった。

### タイの若いおまわりさん

浅野 政枝  
(北海道)

子育ての終わった中年夫婦には、これといった話題に乏しく、会話が少なくなり、年に10人ほどのホームステイに来る人々との交流が、わが家にとっての風穴となっている。7月にタイからきたオッドさんもその一人である。

青少年更生課に勤める公務員なので、いかめしい男性かと思っていたら、細身で柔和な感じの青年だった。仕事柄か、近所の交番を見学したい、と所望したので、朝の散歩の帰りに夫と交番に寄り、満足したようであった。

和食の朝食も、実にスマートに平らげ、日本語をほとんど話せないのに「おいし!」と、雨だれがボトリと落ちたように、自然に言ったのが、とてもすてきな響きとなって残っている。

日本海に見える温泉に入り、パークゴルフを楽し

み、原稿用紙にタイの文字を書き残し、風のようにお国に帰った。

いささか古くて申し訳ないが、彼の写真を見ると、昔はやった甘い声の「もしもし ベンチでささやくおふたりさん 早くお帰り日が暮れる」というなつかしい歌詞が、ふいに浮かんだ。

## 微笑みの国の大和なでしこ

千葉 伸子  
(北海道)

タイは「微笑みの国」と言われるとおり、タイから来た彼女の純粋で優しさに満ちた笑顔は、3日間、私たち家族を幸せいっぱい包んでくれた。

彼女は、誠実で向上心に燃えながら、常に謙虚で心配りの行き届いた、すてきな女性だった。

「大和なでしこ」という言葉は、日本の女性よりタイの女性のほうがふさわしいのではないだろうか。

ホストファミリーの機会を与えていただくたびに思うことは、もてなすはずの私たち日本人のほうが、訪問者から多くのものを学んでいるのではないだろうか、ということである。

今の私たちに欠けている、あるいは失ってしまったものを、彼らの生き生きとした精神から教わりながら、国際交流の果たす意義の深さを改めて実感している。

毎年、つらい別れは避けられないけれど、素晴らしい人と出会えた幸せと、大切な思い出は、私たちにとってかけがえのない財産である。

帰国前夜に、彼女からかかってきた別れを惜しむ電話の声に、「いつか彼女を訪ねて、タイに行こう!」と、家族会議で話し合った。

人と人の間に生まれた愛情が、その国までも好きにさせてしまう。そんな国際交流事業に参加できたことに、心から感謝している。

## ラオスの親戚

工藤 幸子  
(岩手県)

「幸子さん、お世話になりました」と、日本を離れる前の晩、電話をかけてきた彼。だいぶ日本語が上手に話せるようになったと思ったら、さわやかな声で別れを告げてラオスに帰っていった。

夫に言わせると、彼と私の会話は、あやしげな英語の会話に聞こえたそうだ。そうしたなかでも、通じることがたくさんあった。不足の分は、身振り手振り、そしてメモ用紙に書いたり、手段はさまざま、これもまた楽しいものだった。

3日間はまたたくまに過ぎて、もう少し長くてもいい、とさえ感じた。

今まで10人くらいの人たちをホームステイさせてきたが、彼はまるで、遠くの親戚が遊びに来たかのような感じを強く受けた。白菜の漬物を「おいしい」と言いながらパクパク食べ、ご飯の国の人らしく、水田が見たい、と言うので、近くの水田に行ったら、稲穂の先から根元まで、しっかり見ていた。

国に帰ったら、コメや野菜を育てる、と言っていたが、彼の育てるそれらを見に、いつかラオスを訪れたいと、夫と二人で話している。

## KINGDOM DATES

山口 由紀子  
(栃木県)

お元気ですか。2泊のホームステイはあなたの母国であるサウディ・アラビアとの習慣の違いに戸惑い、さぞ疲れたことでしょう。思えば、あなたは一度も箸を使いませんでした。直径10センチ足らずの茶碗もフォークとスプーンで洋食のように、また、リンゴ狩りの帰りに寄ったうどん屋さんではフォークを借りましたが、スパゲティのようにはいきません。たいへん苦勞していましたね。

娘が寮に帰る時、お互い手を上げ、「じゃあ」と

言って別れました。すると、あなたは「どうしてキスをしてあげないのか」と驚いた様子で聞きました。その言葉に、夫も私も「それは二人だけの時ね」と言って笑いました。

狭いわが家の家具の配置にととても感心したようで、「どこで習うのか」と聞かれ、返事に困りました。

それでは、あなたにいただいたデーツを一つ口にして、また会えますように。

---

## 楽しい3日間

---

塚田 いつみ  
(静岡県)

私の家には、カンチャナさんというお姉さんが来ました。初めはちょっとはずかしかったけど、だんだんと話せるようになりました。カンチャナさんとは、アルバムを見たり、世界地図を見たり、外でバドミントンをやったりしました。また、スリ・ランカの観光地の本などを見せてくれたりしました。

とにかくいろいろやって楽しかったです。3日目は日本平に行きました。「富士山、ちゃんと見れるかな」と思いましたが、きちんと見れました。でもその日の富士山は、雪が少ししか積もっていませんでした。

でも、日本平で、私とカンチャナさんの友達にそれぞれぐぜん会ったできごとがありました。

カンチャナさん私にくれたあのスリ・ランカの写真は、私の部屋にかざってます。

カンチャナさん、ありがとう。

(小学5年生)

---

## インドの食生活の違い

---

藤井 奈津子  
(山口県)

私の家は、徳山市の山間部にある。家をはじめ、トイレや風呂も、昔の日本風である。このわが家に、

ディーブさんがホームステイに来た。

ディーブさんが行ってみたいという、動物園、お寺、ショッピング、岩国城等の名所に連れて行ったので、歩き疲れていたように見えた。しかし、朝は早く、私たちが起きるより前に起きていた。

食べ物では、日本料理、しょうゆ味がダメだったので、出かける時には、ガラムマサラで味付けをしたご飯、果物を持参し、家では初めてインド料理に挑戦した。とてもおいしい、と喜んでくれた時には、ほんとうにうれしかった。

最後に、ディーブさんの言うおいしいと、チョット、チョット（少し、少し）のポーズと日本語はとても印象的で、今でも思い出す。

刺激的な日々をありがとうございました。

---

## アルジェリアからやってきたお茶目なノラさん

---

井尻 誠  
(大阪府)

「はじめまして、私の名前はノラです」と片言の日本語であいさつして、私に赤いバラを手渡してくれたアルジェリアのノラさん。笑顔がとてもチャーミングな女性だった。グループのサブリーダーとしてみんなの取りまとめ役をしているだけあって、何事にも積極的に興味を持ち、分からないところがあると質問された。

日本人の多くは異文化に触れると戸惑うばかりで、オープンに受け入れようとはせず、外観だけで理解しがちである。それでは真の国際理解とはいええず、成長しない。

ノラさんとの出会いで、私たちは異文化を尊重しつつ、積極的に何でも吸収しようとする姿勢がいちばん大事であると痛感した。それに加えて自国の文化、芸術、伝統、歴史を理解し、誇りをもって相手に伝えることが大切であると思った。

## 余韻をかみしめて

石村 義典  
(北海道)

私たち家族はホストファミリーとして楽しい2日間の時間を持つことができ、今もその余韻をかみしめている。

わが家に迎えたのは、ウズベキスタンのシュフラト・ファブリディノヴィチ・シャムシジノフさんで、彼はタシケント出身だった。私は数年前、友人とともにタシケントを訪れ、10日間ほど滞在したことがあるので、その郊外のフムサンの写真を彼と一緒に見て、懐かしく感じた。

彼は日本に来て初めて箸を使うということであったが、彼の箸の使い方は巧みで、驚いた。お土産に箸を求める彼の姿を見て、改めて、私たちの生活に占める箸の位置に思いを深くした。

彼が持参した彼の家族のビデオを見て、彼の家族を身近に感じる事ができた。

私は妻とともにシルクロードの国への再訪の夢をふくらませている。

ありがとうございました。

ば、みな兄弟、という意味の沖縄の言葉)を身を持って感じた瞬間でもあった。

あまりにも短く、そして有意義で貴重な体験ができた3日間。

生まれた環境、言葉、宗教……すべてが異なるのに、同じ思いをして、同じ感情をもち、そして感激できることを再確認できた。

このような機会と感動を与えてくれたクライデ君と(財)沖縄県国際交流人材育成財団のスタッフの皆様に心より感謝します。

## ホストファミリーとして共に学んだ3日間

金城 一二  
(沖縄県)

初めてのホストファミリーを通して、2泊3日という短い期間であったが、いろいろな発見や体験、そして世界共通の「人間性」を、改めて学ぶことができたと思う。

わが家にホームステイしたのは、スリナム共和国の好青年。国名も初めて聞いたし、聞いたこともないオランダ語が公用語とのことだ。不安と戸惑いがいっぱい、ウエルカムパーティーに参加した。

しかし、会って握手をしたその瞬間にそれらの不安はなくなり、「イチャリバ、チョウデエ」(出会え

# **JICA関係機関連絡先**



## ★JICA 国内事業部研修業務課

〒151-8558 東京都渋谷区代々木2-1-1  
 新宿マインズタワー(9階)  
 TEL 03(5352)5401～5403  
 FAX 03(5352)5018

## ★JICA 国内支部・センター

北海道国際センター 〒003-0026 北海道札幌市白石区本通16丁目南4-25  
 (札幌) TEL 011(866)8333  
 FAX 011(866)8382

北海道国際センター 〒080-2470 北海道帯広市西20条南6-1-2  
 (帯広) TEL 0155(35)1210  
 FAX 0155(36)2582

東北支部 〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-6-1  
 仙台第一生命タワービル15階  
 TEL 022(223)5151(代)  
 FAX 022(227)3090

二本松青年海外 〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2  
 協力隊訓練所 TEL 0243(24)3200(代)  
 FAX 0243(24)3214

筑波国際研修センター 〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-6  
 TEL 0298(38)1111(代)  
 FAX 0298(38)1119

東京国際研修センター 〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-5  
 TEL 03(3485)7051(代)  
 FAX 03(3485)7904

八王子国際研修センター 〒192-0043 東京都八王子市暁町2-31-2  
 TEL 0426(26)5411(代)  
 FAX 0426(26)9954

駒ヶ根青年海外 〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15  
 協力隊訓練所 TEL 0265(82)6151(代)  
 FAX 0265(82)5336

北陸支部 〒920-0853 石川県金沢市本町1-5-3  
 リファレビル3階  
 TEL 076(233)5931(代)  
 FAX 076(233)5959

中部国際センター 〒465-0094 愛知県名古屋市中東区亀の井2-73  
 TEL 052(702)1391(代)  
 FAX 052(702)1397

大阪国際センター 〒567-0058 大阪府茨木市西豊川町25-1  
 TEL 0726(41)6900(代)  
 FAX 0726(41)6910

中国国際センター 〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1  
 TEL 0824(21)6300(代)  
 FAX 0824(20)8082

四国支部 〒760-0050 香川県高松市亀井町5-1  
 百十四ビル13階  
 TEL 087(833)0901(代)  
 FAX 087(837)0747

九州国際センター 〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1  
 TEL 093(671)6311(代)  
 FAX 093(663)1350

沖縄国際センター 〒901-2552 沖縄県浦添市字前田1143-1  
 TEL 098(876)6000(代)  
 FAX 098(876)6014

## ★JICA Head Quarters

Training and Youth Invitation Division,  
 Domestic Partnership and Training Department  
 SHINJUKU MYNDS TOWER  
 1-1, Yoyogi, 2-chome, Shibuya-ku, Tokyo, 151-8558

## ★JICA Branch Offices and International Centres in Japan

**Hokkaido International Centre (Sapporo)**  
 Minami 4-25, Hondori-16 chome, Shiroishi-ku,  
 Sapporo-shi, Hokkaido 003-0026

**Hokkaido International Centre (Obihiro)**  
 Minami 6-1-2, Nishi-20 Jo, Obihiro-shi,  
 Hokkaido 080-2470

**Tohoku Branch Office**  
 Sendai Daiichiseimei Tower Bldg., 15F  
 4-6-1, Ichiban-cho, Aoba-ku, Sendai-shi,  
 Miyagi 980-0811

**Nihonmatsu Training Centre**  
 4-2, Nagata-Azanagasaka, Nihonmatsu-shi,  
 Fukushima 964-8558

**Tsukuba International Centre**  
 3-6, Koyadai, Tsukuba-shi,  
 Ibaraki 305-0074

**Tokyo International Centre**  
 2-49-5, Nishihara, Shibuya-ku,  
 Tokyo 151-0066

**Hachioji International Centre**  
 2-31-2, Akatsuki-cho, Hachioji-shi,  
 Tokyo 192-0043

**Komagane Training Centre**  
 15, Akaho, Komagane-shi,  
 Nagano 399-4117

**Hokuriku Branch Office**  
 Refare Bldg., 3F  
 1-5-3, Hon-machi, Kanazawa-shi,  
 Ishikawa 920-0853

**Chubu International Centre**  
 2-73, Kamenoi, Meito-ku, Nagoya-shi,  
 Aichi 465-0094

**Osaka International Centre**  
 25-1, Nishi-toyokawa-cho, Ibaraki-shi,  
 Osaka 567-0058

**Chugoku International Centre**  
 3-3-1, Kagamiyama, Higashi-hiroshima-shi,  
 Hiroshima 739-0046

**Shikoku Branch Office**  
 114 Bldg., 13 F  
 5-1, Kamei-cho, Takamatsu-shi,  
 Kagawa 760-0050

**Kyushu International Centre**  
 2-2-1, Hirano, Yahata-higashi-ku, Kita-kyushu-shi,  
 Fukuoka 805-8505

**Okinawa International Centre**  
 1143-1, Aza Maeda, Urasoe-shi,  
 Okinawa 901-2552

★JICA 在外事務所

**JICA CAMBODIA OFFICE**

House No. 36, Street No. 184, Sangkat Phsar  
Thmei 3, Khan Don Penh, Phnom Penh, Cambodia  
[P. O. Box 613, Phnom Penh, Cambodia]  
TEL 855-23-211673~4, 212142

**JICA INDONESIA OFFICE**

Plaza BII Tower II 27th Floor, Jl. MH. Thamrin 51,  
Jakarta Pusat 10350, Indonesia  
TEL 62-21-390-7533

**JICA LAOS OFFICE**

Home No. 351, Naxay Village Unit 24,  
Wat Sisangvone Road, Saysettha  
District, Vientiane, Lao P. D. R.  
[C/O JICA Laos Office  
P. O. Box 3933, Vientiane, Lao P. D. R.]  
TEL 856-21-414387, 412695, 412694

**JICA MALAYSIA OFFICE**

Suite 29.03, Level 29, Menara Citibank, 165,  
Jalan Ampang, 50450 Kuala Lumpur, Malaysia  
TEL 60-3-21668900

**JICA MYANMAR OFFICE**

(Technical Cooperation Section, Embassy of  
Japan)  
No. 73, University Avenue, Yangon, Myanmar  
[Embassy of Japan  
No. 100, Natmouk Road, Yangon, Myanmar, P. O.  
Box 841]  
TEL 95-1-527228, 525860, 527180

**JICA PHILIPPINES OFFICE**

12th Floor, Pacific Star Building,  
Senator Gil J. Puyat Avenue Corner Makati Avenue,  
Makati City, Philippines  
[P. O. Box 1026, Makati Central Post Office,  
Makati City, Philippines]  
TEL 63-2-893-3081

**JICA THAILAND OFFICE**

1674/1 New Petchburi Road, Bangkok 10320,  
Thailand  
TEL 66-2-251-1655

**JICA VIET NAM OFFICE**

11th Floor, Office Tower, Daeha Business Center,  
360 Kim Ma Street, Ba Dinh District, Hanoi,  
Viet Nam  
TEL 84-4-8315005~8

**JICA BANGLADESH OFFICE**

E/8-A, Rokeya, Sharani, Sher-e-Bangla Nagar,  
Dhaka-1207, Bangladesh  
IDB-Bangladesh Islamic Solidarity Educational  
Wakf, 12th Floor, Bangladesh

[Banani P. O. Box No. 9030, Dhaka-1213,  
Bangladesh]  
TEL 880-2-9126315, 9132535, 9132656, 9114829

**JICA INDIA OFFICE**

2nd Floor, DLF Centre, Sansad Marg (Parliament  
Street) New Delhi-110001, India  
TEL 91-11-331-1990~4

**JICA MONGOLIA OFFICE**

Zaluuchuudin Street 24, Ulaanbaatar, Mongolia  
[C/O Central P. O. Box 682, Ulaanbaatar 13,  
Mongolia]  
TEL 976-11-325939, 312393, 329385, 321329

**JICA NEPAL OFFICE**

Tripureshwar, Kathmandu, Nepal  
[P. O. Box 450, Kathmandu, Nepal]  
TEL 977-1-260236, 260199, 260502, 261288

**JICA PAKISTAN OFFICE**

House No. 1, St. No. 61, F-6/3, Islamabad, Pakistan  
[P. O. Box 1772, Islamabad, Pakistan]  
TEL 92-51-2822654, 2822674, 2829473~8

**JICA SRI LANKA OFFICE**

16/2, Gregory's Road, Colombo 7, Sri Lanka  
[P. O. Box No. 2068, Colombo, Sri Lanka]  
TEL 94-1-681248, 681253

**JICA UZBEKISTAN OFFICE**

5th Floor, International Business Center, 107-B,  
Amir Temur Str., Tashkent 700084, Uzbekistan  
TEL 998-71-120-7966~67, 137-0915~17

**JICA PAPUA NEW GUINEA OFFICE**

Shop 7A, Second Floor, Garden City, Lot 4, Section  
18, Angau Drive, Boroko,  
N. C. D., Papua New Guinea  
[P. O. Box 6639, Boroko, N. C. D.,  
Papua New Guinea]  
TEL 675-325-1699

**JICA FIJI OFFICE**

7th Floor, Dominion House, Suva, Fiji  
[[JICA Private Mailbag, Suva, Fiji]  
TEL 679-302522

**JICA SAMOA OFFICE**

Mulivai, Apia, Samoa  
[P. O. Box No. 1625, Apia, Samoa]  
TEL 685-22572, 22139

**JICA CÔTE D'IVOIRE OFFICE**

(JICA EN CÔTE D'IVOIRE)  
7 Boulevard Roume, Abidjan, Côte d'Ivoire  
[04 B. P. 1825 Abidjan 04, Côte d'Ivoire]  
TEL 225-20222290, 20222203, 20218112

**JICA EGYPT OFFICE**

World Trade Center 10th Floor 1191 Corniche El Nile St. Boulak, Cairo, Egypt  
[C/O JICA Egypt Office, P. O. Box 475, Dokki, Arab Rep. of Egypt]  
TEL 20-2-5748240 ~ 2

**JICA ETHIOPIA OFFICE**

Woreda 17, Kebere 17, House No. 222, Addis Ababa, Ethiopia  
[P. O. Box 5384, Addis Ababa, Ethiopia]  
TEL 251-1-615880 ~ 3

**JICA GHANA OFFICE**

Valco Trust House, Castle Road, Ridge, Accra, Ghana  
[P.O. Box A. N. 6402, Accra-North, Ghana]  
TEL 233-21-238419 ~ 22

**JICA KENYA OFFICE**

The Rahimtulla Tower 10th and 11th, Upper Hill Road, Nairobi, Kenya  
[C/O JICA Kenya Office, P. O. Box No. 50572 Nairobi, Kenya]  
TEL 254-2-724121 ~ 4, 724877

**JICA MALAWI OFFICE**

Area 13-Plots 5 and 6, Development House Ground Floor, Lilongwe 3, Malawi  
[P. O. Box 30321, Capital City, Lilongwe 3, Malawi]  
TEL 265-771644, 771554, 771945, 772234

**BUREAU DE LA JICA AU MAROC**

No. 69 bis, rue Tensift, Agdal, Rabat, Maroc  
TEL 212-3-7686391 ~ 94

**JICA SOUTH AFRICA OFFICE**

1st Floor, Bank Forum Building, Fehrsen & Bronkhorst Streets, New Muckleneuk, Pretoria, Republic of South Africa  
[P. O. Box 14068, Hatfield 0028, Pretoria, Republic of South Africa]  
TEL 27-12-346-4493, 4528, 4896

**BUREAU DE LA JICA AU SENEGAL**

Immeuble SDIH, 3 Place de l'Indépendance, Dakar, Senegal  
[B. P. 3323, Dakar, Senegal]  
TEL 221-8213366, 8216919, 8221432, 8230022

**JICA TANZANIA OFFICE**

Plot No. 1033/1, Mindu Street, Upanga, Dar Es Salaam, Tanzania  
[P. O. Box 9450, Dar Es Salaam, Tanzania]  
TEL 255-22-2113727 ~ 2113730, 2117328, 2117356

**BUREAU DE LA JICA EN TUNISIE**

16, Rue Jaafer El Barmaki, Mutuelleville, 1002 Tunis, Tunisie  
[Bureau de la JICA, B. P. 764, 1080, Cedex, Tunis, Tunisie]  
TEL 216-1-786386, 785295, 787831, 785616

**JICA ZAMBIA OFFICE**

Plot No. 59B Mutandwa Road, Roma, Lusaka, Zambia  
[P. O. Box 30027, Lusaka 10101, Zambia]  
TEL 260-1-291075, 294433, 292778

**JICA ZIMBABWE OFFICE**

Southampton Life Centre, 8th Floor, 77 Jason Moyo Avenue, Harare, Zimbabwe  
[P. O. Box 4060, Harare, The Republic of Zimbabwe]  
TEL 263-4-252500, 252501, 252502, 252505

**JICA NIGERIA OFFICE**

2 nd Floor, AP Plaza, Adetokunbo Ademola Crescent, Wuse 2, Abuja, Nigeria  
[P. M. B. 5090 Wuse, Abuja, Nigeria]  
TEL 234-9-523-2869

**AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL DEL JAPON**

Dr. Ricardo Rojas 401, Piso 8, 1001-Buenos Aires, Argentina  
TEL 54-11-4313-8901

**AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL DEL JAPON EN BOLIVIA**

AV. Victor Sanjines No. 2678, Edificio BARCELONA Piso 5, La Paz, Bolivia  
[Cajon Postal No. 11447, La Paz, Bolivia]  
TEL 591-2-422221

**ESCRITORIO ANEXO DA EMBAIXADA DO JAPAO**

SCS Quadra 01, Bloco F, Ed. Camargo Correa, 12º Andar, Brasília, D. F. Brasil  
[JICA-Escritório Anexo da Embaixada do Japao Caixa Postal, 09942, Cep 70.001-970-Brasilia-DF, Brasil]  
TEL 55-61-321-6465, 321-9723, 321-9837, 321-0518

**AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL DEL JAPON**

Av. Andrés Bello 2777, Edificio de la Industria Piso 27, of. 2701, Las Condes, Santiago, Chile  
[Casilla 16137, Correo 9, Santiago, Chile]  
TEL 56-2-203-3095 ~ 8

**AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL  
DEL JAPON**

Calle 72, No. 10-07, Piso 7, Edificio Colmena Santa Fe de Bogotá, Colombia  
[Agencia de Cooperación Internacional del Japón, Apartado Aéreo No. 90861, Santa Fe de Bogotá D. C., Colombia]  
TEL 57-1-345-0055

**AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL  
DEL JAPON**

Av. Sarasota No. 20, Edificio Torre Empresarial AIRD Piso 7, La Julia, Santo Domingo, Republica Dominicana  
[Apartado Postal No. 1163, Santo Domingo, Republica Dominicana]  
TEL 1-809-381-0005

**JICA HONDURAS**

Calle Santa Rosa, Colonia Lomas del Mayab, Casa No. 1346 Tegucigalpa, M. D. C., Honduras Central America  
[JICA HONDURAS Apartado Postal No. 1752, Tegucigalpa, M. D. C., Honduras Central America]  
TEL 504-232-6727, 232-6737, 232-8816

**JICA MEXICO OFFICE**

Ejército Nacional #418-201 Col. Chapultepec Morales Mexico, D. F., C. P. 11570  
TEL 52-55452476, 55452512, 55452519, 55458708, 55459407, 55458574

**AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL  
DEL JAPON EN PANAMA**

Edificio World Trade Center Panama, Piso 4, Calle 53 E, Urbanización Marbella, Ciudad de Panamá, Republica de Panama  
[JICA PANAMA OFFICE, 0832-00900 World Trade Center Panama Panamá, Republica de Panama]  
TEL 507-264-9669, 264-9406, 223-3612, 264-9259

**AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL  
DEL JAPON OFICINA EXTERIOR EN PARAGUAY**

Presidente Franco y Ayolas, Edificio Ayfra 11° Piso, Asunción, Republica del Paraguay  
[Casilla de Correo No. 1121(P. C. 1209) Asunción, República del Paraguay]  
TEL 595-21-491154 ~ 7, 490651, 492692, 495234

**JICA PERU OFFICE**

**(AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL  
DEL JAPON)**

Av. Angamos Oeste 1381, Santa Cruz, Miraflores, Lima, Peru  
[Apartado Postal 18-0261, Lima 18, Peru]  
TEL 51-1-221-2433

**JICA SAUDI ARABIA OFFICE**

Economic Section, Annex of Japanese Embassy Block No. 55, Amer Ibn Aws Street, Al-Raed District, Riyadh, Saudi Arabia  
[JICA SAUDI ARABIA OFFICE P. O. Box 90552 Riyadh 11623, Saudi Arabia]  
TEL 996-1-482-2212, 482-5611

**BUREAU DE JICA EN FRANCE**

8, rue Sainte-Anne, 75001 Paris, France  
TEL 33-1-40200421

**JICA U. K. OFFICE**

45 Old Bond St., London W1S 4AG, U. K.  
TEL 44-20-7493-0045

**JICA/JOCV BHUTAN OFFICE**

Doybum Lam / Memorial Chorten, Thimphu, Bhutan  
[P. O. Box 217, Thimphu, Bhutan]  
TEL 975-2-322030, 323218

**JICA/JOCV EL SALVADOR OFFICE**

(Oficina Residente Representativa de JICA/JOCV) Calle del Mirador No. 15-288, Colonia Escalón, San Salvador, El Salvador, C. A.  
[Oficina Residente Representativa de JICA/JOCV Apartado Postal No. 01-114, San Salvador, El Salvador, C. A.]  
TEL 503-2630940, 2640739, 2640741

**JICA/JOCV GUATEMALA OFFICE**

(Oficina de Voluntarios Japoneses) 18 Calle, 5-56 Zona 10 Guatemala Edificio Unicentro 12 Nivel Oficina 1203, Guatemala  
[Oficina de Voluntarios Japoneses Apartado Postal No269-A, Guatemala, Guatemala]  
TEL 502-3661919, 3661915 ~ 18

**JICA/JOCV COSTA RICA OFFICE**

Residencial Montealegre, Zapote, Avenida 16 y Calle 29, del Parque de los Mangos, 100mts. Sur, 100mts. Oeste, San José, Costa Rica A. C.  
[Apartado Postal #666-2010, Zapote, San José, Costa Rica A. C.]  
TEL 506-2-253114, 240540

**JICA/JOCV JAMAICA OFFICE**

8th Floor, Island Life Centre 6, St. Lucia Avenue Kingston 5, Jamaica (W. I.)  
[P. O. Box 8202, C. S. O., Kingston, Jamaica (W. I.)]  
TEL 1-876-9294069, 9600021, 9080847, 9080848

**JICA/JOCV NICARAGUA OFFICE**

Hospital Militar, 1 Cuadra al Lago, 1 y 1/2 Cuadra  
Abajo, Barrio Bolonia Managua, Nicaragua  
{Hosp. Militar, 1c. al Lago, 1y 1/2c. Abajo, Barrio  
Bolonia P. O. Box 509, Managua, Nicaragua}  
TEL 505-2668323, 2668347

**JICA/JOCV VANUATU OFFICE**

2nd Floor, Hong Kong & New Zealand House,  
Port Vila, Vanuatu  
[Private Mail Bag 005, Port Vila, Vanuatu]  
TEL 678-23546, 24254

**JICA/JOCV SOLOMON OFFICE**

Lot No. 23, Y. SATO Bld. 1F, Common Wealth St.  
Honiara, Solomon Islands  
[P. O. Box 793, Honiara, Solomon Islands]  
TEL 677-22615, 21110

**JICA/JOCV TONGA OFFICE**

3rd Floor, National Reserve Bank of Tonga  
Building, Salote Road, Fasi, Nuku'alofa,  
Kingdom of Tonga  
[P. O. Box 413, Nuku'alofa, Kingdom of Tonga]  
TEL 676-23072, 24361

**JICA/JOCV PALAU OFFICE**

George Ngirarsaol Commercial Building,  
Koror, Palau 96940  
[P. O. Box 6047, Koror Republic of Palau 96940]  
TEL 680-488-5373, 488-5370

**JICA/JOCV FSM OFFICE**

3rd Floor Martin's Building Kaselelich Street,  
Kolonias, Pohnpei 96941,  
The Federated States of Micronesia  
[P. O. Box G, Kolonias Pohnpei 96941,  
The Federated States of Micronesia]  
TEL 691-320-5350, 5439

**JICA/JOCV NIGER OFFICE**

8 rue des Lac, Ancien Plateau, Niamey, Niger  
[B. P. 10036, Niamey, Niger]  
TEL 227-735569, 732994

**JICA/JOCV BOTSWANA OFFICE**

1st Floor, Plots 896/897 Kaunda Road, Gaborone,  
Botswana  
[Private Bag 00369, Gaborone, Botswana]  
TEL 267-312176

**JOCV MALDIVES OFFICE**

Radiumge-Aage, 1st Floor Galolhu Male, Maldives  
[P. O. Box 2007, Male, Republic of Maldives]  
TEL 960-322049

**JOCV ECUADOR OFFICE**

Robles 653 Y Av. Amazonas, Edificio Proinco  
Calisto, Piso #13, Ecuador  
[P. O. Box 17-21-01466, Quito, Ecuador]  
TEL 593-2-230426, 503780, 503782, 569123

**JOCV MARSHALL OFFICE**

1st Floor, PII Complex, Delap Village Majuro Atoll,  
MH, 96960 Rep. of The Marshall Islands  
[P. O. Box F, Majuro, MH, 96960  
Rep. of The Marshall Islands]  
TEL 692-625-5437, 625-5438

**JOCV BURKINA FASO OFFICE**

Immeuble CGP, 7ème étage Avenue de la  
Résidence du 17 Mai Ouagadougou, Burkina Faso  
[01 BP 1484 Ouagadougou 01 Burkina Faso]  
TEL 226-330766, 330767

★JICA アセアン帰国青年同窓会

[カンボディア]

**JAAC (The JICA Alumni Association of Cambodia)**

JICA Cambodia Office  
House No. 36 Street No. 184, Sangkat Phsar Thmei  
3, Khan Don Penh, P. O. Box 613, Phnom Penh,  
Cambodia

[インドネシア]

**KAPPIJA21 (Keluarge Alumni Program**

**Persahabatan Indonesia Jepang Abad 21)**

National Secretanat: Graha Pemuda 2nd Floor Jl.  
Gerbang Pemuda No. 3, Senayan, Jakarta 10270,  
Indonesia  
E-mail:kappija@kappija-21.com  
URL: <http://www.kappija21.or.id>

[マレーシア]

**PAMAJA (Persatuan Alumni Program**

**Persahabatan ASEAN-Jepun Abad Ke 21,**

**Malaysia)**

C/O Look East Policy, PSD, P. O. Box 13008,  
50796 Kuala Lumpur, Malaysia  
E-mail:pamaja@Malaysia.net  
URL:<http://go.to/pamaja>

[フィリピン]

**PAJAF21 (Philippines ASEAN-Japan Friendships**

**Association for the 21st Century)**

2358 Singalong, Malate, Manila, Philippines 1004

[タイ]

**FYAA (The Friendship Youth Alumni Association of**

**Thailand)**

20 Soi Ramkamheang 11 (Lmpech), Ramlamheang  
Road, Huamark Bangkapi, Bangkok 10240,  
Thailand

[ヴェトナム]

**VACYF (Viet Nam Alumni Club of Youth Friendship**

**Programme)**

64 Ba Trieu Street Hanoi, Viet Nam

[ブルネイ]

**PERTAB21 (Perubahan Alumni Abad K-21, Brunei**

**Darussalam)**

4, Simpang 167, Ban 3, Kgkilanas,  
Brunei Darussalam

[シンガポール]

**SAJAJA21 (ASEAN-JAPAN Friendship Association**

**for the 21st Century, Singapore)**

Apartment Block 639, Hougang Avenue 8, #03-139,  
Singapore

---

**青年招へい事業** —アジア・太平洋・アフリカ・中南米諸国、サウディ・アラビア— **[交流レポート] (2000)**

平成13年3月31日

発行 国際協力事業団国内事業部研修業務課

〒151-8558 東京都渋谷区代々木2丁目1-1

新宿マインズタワー

電話 (03) 5352-5401～3

編集 (財)日本国際協力センター国際交流部

〒163-0489 東京都新宿区西新宿2-1-1

新宿三井ビル

電話 (03) 5322-2571

---

無断転載を禁じます。

